

神奈川縣教育

昭和五年九月一日發行

第貳百六十八號



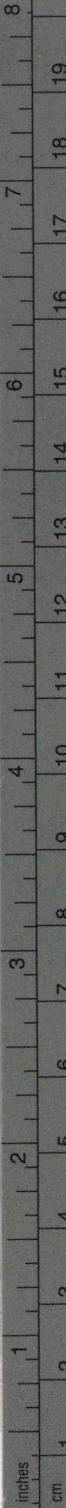
神奈川縣教育會

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



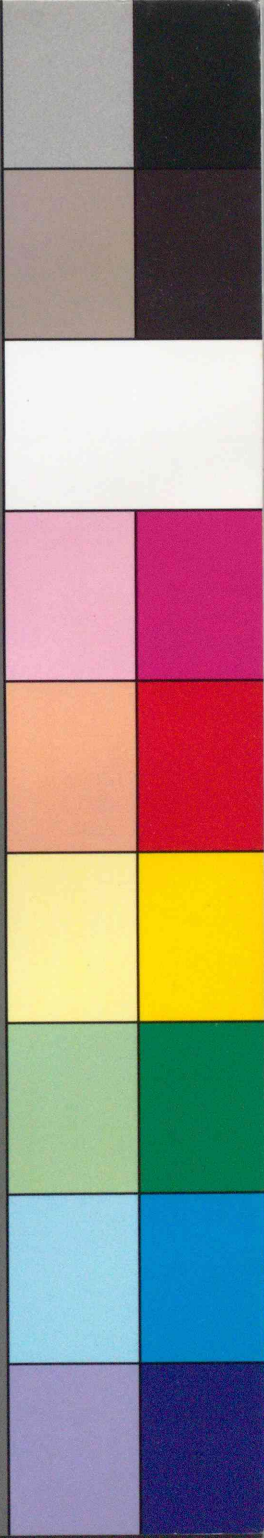
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



學 生 版

★ 每 月 一 圓 五 十 錢 ★



★ 申 込 金 不 要 ★

刊 行 所 東 京 麹 町 一 番 町 五 第 一 書 房
振 替 東 京 六 四 二 二 三
電 話 九 段 (33) 三 三 四 四

世界的文豪、教育界の恩人、我等の小泉八雲先生。先生を知らざることとは今や國家的恥辱とさへ云はれてゐる。先生は我日本國民の此上ない代辯者であり、又尊敬すべき魂の教育者だ。本全集は先生が我等に残された莫大な遺産であり、我等が先生に捧げる頌徳表である。全國學校、官衙、圖書館必備、教育家、學生は勿論一般人の必讀を薦む。

小 泉 八 雲 全 集

全 十 五 卷

豫 約 募 集

學校・圖書館必備、萬人必讀の全集
讀書界の大福音、世界的文豪の全集

申 込 締 切 日 九 月 末

内 容 見 本 無 代 贈 呈
御 申 込 見 本 (寄 行 所)

神 奈 川 縣 編 纂

豫 告 (發 行 九 月 中)

縣 民 讀 本

菊 版 約 四 百 頁 寫 眞 ・ 圖 表 ・ 地 圖 類 六 十 八 葉 入

定 價 四 拾 錢 內 外

縣民意識を強調し、本縣の現勢を明確なるしむることが其の使命である。行文は尋常小學校卒業者にも讀み得る平明の記述である。
實業補習學校生徒、青年團員、中等學校生徒、一般縣民に普ねく購讀を望む。

|| 神奈川縣廳教務課宛申込まれ度し ||

發 行 神 奈 川 縣 教 育 會

女性の職業に對する根本問題 …… 新川正一 …… 一
 學校給食に關する諸問題 …… 山口幸之助 …… 一一

◆職員組織といふ事 …… 佐藤善治郎 …… 一九

◆禪の修養に就いて …… 江川太禪 …… 二二

自由表現の提唱 …… 小菅一男 …… 二四

地理學習ノートについて …… 年繩秀治 …… 二八

多摩丘陵の研究 …… 長野義一 …… 三〇

◎大規模の國勢調査 …… …… 三六

◎畠山重忠靈堂の建立 …… …… 三九

二宮尊徳を偲ぶ報徳デー …… 女師附屬小學校 …… 四〇

再び信仰的教育の急務を叫ぶ …… 加藤三太 …… 五六

一般救濟的聾啞教育及義務教育 …… 平岩繁治 …… 五九

としての聾啞教育法 …… …… 六一

印刷物寄贈並兒童成績品に關して …… …… 六一

◆理科研究協議會要録 …… …… 六二

◆藤木講師の講演 …… …… 六八

世界教育思潮の大觀 …… 野路當作 …… 七五

家事教授の實際と研究指導 …… 御所見校 …… 八〇

—— 新刊紹介 ——

◆本縣最近教育界の展望 …… …… 九三

◆文部省檢定小學校用教科圖書 …… …… 九四

藤村少年讀本 卷七全

島崎藤村 原校 作
務臺四郎 編

文豪藤村氏の新作を網羅せる學年別讀本始て成る
裝幀は瀟洒たる佛蘭西教科書型美本
あまねく兒童に音讀せしむべきもの
少年の讀物はおもしろいものであつて欲しい。彼等に愛されるやうなものであつて欲しい。しかし、そればかりでなく、彼の心を高めるやうなものであつて欲しい。この讀本が多小なりともそれに役立ち、學校用の教科書以外に副讀本なり家庭での讀物なりとして、少年諸君の友となる事が出来るならば、私に取つての仕合せである。——藤村——

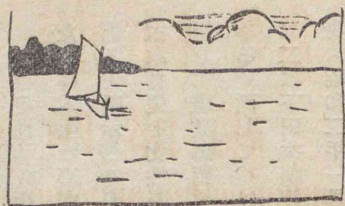
裝幀 山本 鼎
挿繪 足立源一郎 武井武雄
カッタ 木村 莊八 初山 滋

料	送	定價金四十五錢
市內	地方	各册
一册	二册	第一卷 尋常一年用
一册	二册	第二卷 尋常二年用
一册	二册	第三卷 尋常三年用
一册	二册	第四卷 尋常四年用
一册	二册	第五卷 尋常五年用
一册	二册	第六卷 尋常六年用
一册	二册	第七卷 高等小學用

東京市麴町區麴町九丁目二番地

采文閣

電話九段一五八・五〇一三



女性の職業に對する

根本問題

新川正一

- 一、何が根本問題か
- 二、湯原元一氏の說
- 三、下田次郎氏の說
- 四、友枝高彦氏の說
- 五、個性と職業（知能の性的差異と個人差）
- 六、母性と職業

一、何が根本問題か

女子の職業に對する態度——職業を有つべきか、持たない方がよいのか、母性との關係如何等——は女子の職業指導に於ける根本問題である。にも係らず、本問題に對する見解は、今日尙未決のまゝで、女子の職業への進出は驀進をつづけてゐる。私は本問題解決の前提として、諸家の見解を紹介批判し、進んで自分の考ふるところを述べてみた。

もとより此の問題は純然たる社會問題を構成するのであるが、私の立場は單なる社會問題としてよりは、倫理との

交渉を保ち、深く人間性に觸れしめやうとするところに存する。それ故、かくの如き意味に於て、現在發行されてゐる女子修身教科書並其の教授參考書をみると最も便利であるとおもはれる。特に大抵の教科書では此の問題について、今將に女子中等學校を終らうとする最上級に向つて説いてゐるから都合がよい。而して私の見るところによれば、此等の著は本問題につき三様の態度を示して居るとおもはれる。

第一は極めて消極的、微温的な考へ方であつて、女性の本務はあく迄家政育兒にありとなし、一般の女子は此の天職を完うする爲の修養が先づ第一で、必要を生じた場合一身一家の生計の補助、又は不時の場合の爲に「前以て相當な職業を心得ておくがよい」といふのである。

第二は第一の場合と同じく女性の第一義は家庭にありとする。然し女子の職業は大體に於て補助的であるが、第一の例の如く前以て心得ておけばよいのではなくて、補助的であつても其の能率の増進に努めなくてはならないし、家事と職業とは兩立し得ないことはないというてゐる。

第三は第一に比べると餘程積極的な考へ方で、次のやうに言つてゐる。

人はそれ／＼生れ乍らに種々なる素質を有つてをるもので、此の素質趣味によつて仕事を見出して活動するのは、たゞに人生の喜びであるのみならず、同時にそれが社會への奉仕である。故に人は男女の區別なく職業を有つべきであるとする。然し最後には、家事を第一に考へなくてはならないと説いてゐるが。

家政育兒を女性の第一義とみることは、人類の性的分擔として尤もなことであるが、それはそれとして、此の事と聯關して職業に對する以上三の考へ方は、何れを以て職業に對する正當なる態度とすべきであるか、これ本論の主題である。而して、以上の第一の思想は、湯原元一著新女子修身教本（昭和三年二月十五日檢定）に見出すものであり、第二は下田次郎著女子新修身教科書第二修正版（昭和二年十二月十五日檢定）に於て、第三は友枝高彦著改訂女子修身（昭和二年一月二十六日檢定）に於て見ることが出来る。私は進んで此等の各々につき詳細に紹介し批判したい。

二、湯原元一氏の説

湯原氏は、其著卷四第十五課「職業と獨立」に於て氏の考を披瀝して居る。氏は同書教授參考書に於て同課の要旨を次の如く述べてゐる。

「女子の眞の獨立は其の特性を發揮することによつて得られ、職業は只その補助手段に過ぎない。」と。而して教科書の第一節に於て「天職と職業」とを中心問題として、「女子には家庭を主宰すべき天職があるから、若し女子の職業が一生にわたつて其の全力を要求するものであるとすれば、女子は到底職業に従事することは出来ない。」と論じてゐる。暫定的腰掛の職業だけが、僅に女子の職業であることを暗示してゐる。即ち兩者は兩立せず、天職主職業従の関係であるといふのである。恰も「男子が職業の傍ら學問をするものが多いやうに、女子も家庭を治めながら職業に従事されないことはない。」といひ、女子の職業は飽くまで補助的、傍系的、趣味的のものであることを明確にしてをる。嫁入前に一時職業に従ひ、婚資を稼ぐとか、結婚後子供の出来る迄の退屈を凌ぐとかいふのがそれであらう。

そこで先づ第一に疑問とするのは、かくの如き一時的趣味的の職業があるだらうかといふことである。試に左の職業婦人調査（社會局天谷、小田兩氏調査）に於ける種目の中、どれがそれに該當するのであらうか。

公務自由業

(イ) 醫務に關する業務

産婆、看護婦、鍼灸按摩師、其他の醫師、藥劑師

(ロ) 教育に關する業務

小學校教員、其他の女教員

(ハ) 官廳 雇傭

逓信省、鐵道省、其他(印刷局、專賣局、海軍、製鐵所)

商 業

(イ) 遊藝娛樂に關する業務

料理屋女中、待合茶屋女中、飲食店女中、宿屋、浴場雇女、女給、劇場、寄席、活動觀覽物の雇女、活

動女優、遊藝師匠

(ロ) 商業上雇傭

事務員、店員、タイピスト、交換手

工場鑛山婦人職員

其他の有業者

髮結業、新聞雜誌記者、派出婦、音樂家

右の中極めて少數のもの以外は何れも一生とは言はぬ迄も、少くとも永續的努力を必要とし、それなくしては成功もしないといふやうなものではなからうか。

以上は女性の職業に對する一般的态度であるが、此の如き態度から女性が職業を必要とする理由はどんなものであらうか。氏はこれに對して二をあげてゐる。第一は社會的要求であり、第二は一身一家の不時の用に備へる爲である。私はこの社會的要求に多大の意味を考へるものであるが、氏は教科書に於ても亦參考書に於ても、何等説明を加へてゐないので、如何なる意味なのか不明である。何れにしても、あるかなきか分らない不時の場合の爲に必要であるとするのは、極めて消極的な態度である。私はこゝに於ても亦疑問なきを得ない。かくの如き理由の下に「前以て相當な職業を心得て置くがよい」といふ態度では、今更事改めて女性の職業など論するの要はないのではあるまいかと。

三、下田次郎氏の説

下田氏は其の著卷五第九課に於て、「女子と職業」なる題下に述べてをる。氏は教授參考書に於て同課の要旨を述べて曰く、

婦人問題の一たる職業に關する一般的智識を與へ、女子の本務とせられてゐる家事との兩立について考慮し、彼我女子の職業に對する見方の相違をも説いて勞働觀念の覺醒を促す。と。

女性の職業に對する根本的態度としての氏の考へ方は、家政職業兩立論であることがうかがへる。即ち教科書第三節に「家事と職業」なる項を設け、「現在よりも一層合理的に、科學的に、家政育児を處理し得るやうになれば、現時のそれ等はもつと短時間に出來、剩し得た時間をもつて職業の時間に充てることは必ずしも難事ではない。即ち是と彼とは必ずしも兩立しないものではない。」と述べてゐる。然し兩立せしむるのが理想であるかどうかについては別に述べてゐる。然し兩立せしむるのが理想であるかどうかについては別に述べてゐる。次に女性が職業を必要とする理由如何。氏はこれを三の立場から次の如く述べてゐる。

先づ第一は個人的理由であつて、自己の生活價値の増大であり、職業は個性發揮の方便として活動欲を満足せしめ道徳的に人をして向上せしめるといふのである。第二は社會的理由であつて、仕事を有つものが多ければ多い程社會の福利は増進するといふのがそれである。第三は他日不時の場合に備へるといふ消極的理由である。

以上氏の考察を湯原氏のそれと比較する時、女性の職業に對する根本的態度に於て、非常な差異のあることを認めることが出来る。同時に職業につくことにより積極的に活動欲の満足、個性の完成を計ると共に、社會機構に貢獻するといふ下田氏の考へ方は特に注目し得る。私はかくの如き人間性の充實満足といふ見地に立つ時に見、眞面目に職業を問題とすることが出来るのであると確信する。

四、友枝高彦氏の説

六

下田氏のこの考へ方を、もう一步進めて明白に説いてゐるものは友枝氏である。氏は其の著卷四第十七課に於いて「女子と職業」なる題下に所説を述べてゐる。教授参考書に依つて同課の要旨をみると

人は男女の區別なくその素質に應じて業務を求め、自己のため國家社會の爲につくすべきものなることを明にする

と。
實に明快なる所論である。素質とは俗に言ふ生れつきで、將來發展する力、詳言すれば身心の發達すべき根本的性質をいふのである。各人は此の素質を銘々異にし、其れを基本として個性を形成してゐるのである。「自分の趣味や能力によつて、仕事を見出し活動することが出来るのは實に人生の喜び」であり、反對に「もし生れ乍らの天才を伸す機會を得ず、練習の効を現すことが出来なかつたら、それは人生の不幸であり社會の損失である。實に社會全體からみて、女性が職業を持つことは重大なる意味があるのである。

以上は「女性と職業」に對する氏の根本的態度であるが、同時に女性が職業を必要とする理由でもある。尙氏は其の必要なる理由の第二として、生活上の必要を説き「自己のためのみならず、肉親のためにも其の日の糧を求なければならぬ。殊に今日の如き複雑なる經濟關係の時代では、人は其の能力に應じ、其の境遇によつて皆この經濟組織に織り込まれ、否應なしに働かぬばならなくなつて來た。」と説いてをる。氏には近代生活の實相、經濟組織に對する認識が充分にあることは、前二者と全く趣きを異にするところであつて、私の最も注目する點である。

ところが此の如き氏の明快なる所論も、母性と關係を考慮することになると、わけの分らないものとなる。曰く、女子として様々の技能を學び、職業につくのは固より必要のことと思はれるが、そのために決して忘れてならないものは、母性としての任務である、と前提し、職業との關係を「男女相依つて始めて完全なる社會を作り得ることを考

へたならば、先づ妻として母としての務を第一に考へなければならぬことはいふ迄もない。」といつて湯原氏の説の如くに述べてゐる。これを冒頭の「人は男女の區別なくその素質に應じて云々」と照し合せると明に矛盾する。この矛盾をどう解するのか、氏は何等の判斷を與へずにある。

五、個性と職業

扱て始の問題に歸つて、女性は職業を有つ可きであるか、有たない方がよいのか、母性ととの關係如何を、如何に解すべきかであらうか。天賦の性能の發揮、個性の充實完成といふことが、われ／＼人間の理想である限り、女性亦其の素質境遇に應じて職業を有つべきであることは疑ふことを得ない。此の意味に於て友枝氏と共に「人は男女の區別なくその個性に應じて業務を求め、社會國家の爲に貢獻すべき」であるといはざるを得ない。

こゝに説をなすものがある。人は各々その個性に従つて職を求めるとはよいが、男性には男性の職業があり、女性には女性の職業があるのではないかといふのがそれである。勿論兩者の間には生物的、生理的、解剖的並心理的の差異がある以上、職業選定に當つて此等の點を考慮に入れなくてはならないのはいふ迄もないが、こゝに特記せねばならないことは、古來男女の能力について、男優女劣といふ傳統的迷信があるといふことである。かくの如き傳統的迷信下に於ては、男女の區別なく各その個性に應じ云々といつたところで證なきこととなる。然し乍ら、此の迷信は心理學的研究の進歩につれて、其の迷妄なることがはつきりして來た。以下私は知能に關する限りに於ては、男女の間にあつては性的差異は左まで問題でないことを、諸家の研究によつて綜合してみたい。

ターマンの一般知能測定の結果によると、五歳から十三歳迄の間に於ては、一般に女兒の知能率は、男兒の上にあることが明瞭に示された。即ち一般知能に於ては、發達期の男女間には、少くとも性的差異を示さず、寧ろ女優男劣といふ傾向をあらはすといふことである。我が橋崎博士は、滿十一歳半の男女について、ターマンのそれよりも一層

精密な比較研究をして居るが、其の結果は次の通りである。

八

A 兩者に差異なきもの………注意力

B 男優女劣のもの………1 論理的明確力 2 分類力 3 論理的統覺力 4 抽象力 5 推理力 6 精神容力

C 女優男劣のもの………1 技巧力 2 器械的記憶力 3 關係的記憶力

然もかくの如き概括は、一般に一方が優り、又は他に劣るといふ意味ではない。以上十種の素質について、男女間には性的差異を示さず、全然同一な場合が多い。唯其の幾割かに於て一方が他に優り、又は他に劣るといふに過ぎないこれを博士は次の如く要約してをる。

一、十種の素質力に於ける性的差異は、多數の被験者に現れない。従つて一般的なる男優女劣、又は男劣女優の事實は少しも認めめることは出来ない。

二、小數の男女間には明に性的差異を示す。(前掲がそれ)

三、一切の男女間には少しの性的差異を示さないものがある。それは注意力である。

淡路博士は、作業能率に關し、男女の心理的差異につき諸家の研究を考察してをるが、其の場合にも性的差異よりも個人差の方が著しいといふ結論を得て、職業選擇については次の如く述べてをる。

男にしる女にしる、其の知能には個人差が著しく、其の差は性別差よりも甚しい。従つて問題は、ある種の職業が知能上より見て男女の何れに適當してをるかといふことよりも、男女の如何を問はず之に従事するには、どの程度の知能を有する個人が適當であるかといふことに移るのである。

以上は種々なる時期、觀點に立つて試みられた研究であるから、かなり信頼の出来るものとおもはれる。要するに男女の知能に於ては、性別差よりも個人差の方が大きく、女性の職業問題に於ては、従つて、個性が唯一の解決のキイなのであるといふことが明瞭になつた。

六、母性と職業

女らしさとは母らしさの謂に他ならぬ、一切の愛はそこに始まり、そこに終る。

ブラウニングは母性の尊嚴をいみじくもうたひ出してゐる。これを冒頭に引用してエレン、ケイは「母性の復興」に於て、女性に於ける母性の眞義を明にした。まことに母性こそは女性の第一義である。又しばしば引用されるあの有名なゲーテの「永遠の女性」も、畢竟母性の久遠なる姿に他ならない。かくの如き詩人の直感並に生物學的、社會學的研究の歸趨に於て、母性こそは女性の第一義である。かくの如き意味から考へる時は、われわれは母性と職業との關係を湯原氏の如く、母性主職業従と考へなければならぬ。然し乍ら單なる主従關係は、母性と職業とを相對的、二律背反とみるところの淺薄なる考へである。母性と職業とは、決して相對的のものではなく、亦二律背反するものでもなく、後者は母性完成への目的に攝取されなければならぬ。やがて子女の職業問題に當面する母親に、職業的體験の有無は直に母性の深みに影響する。殊に世相の變遷は母性の完成をば、經濟的に、熾烈に侵し來つておることを考へれば、この事は益々明白であると言はねばなるまい。勿論母性の完成は物質の豊富のみではないが。羽仁もと子氏は其の著作集の中で、職業に適應する婦人は母妻にも適せずとさへ言つて居る。

母と呼ぶのを一寸待つて下さい、わたしたちは母と呼ばれる前に一ケの女性、一人の人間なのでから(菊池寛

「母」想記)

この叫びも亦女性の眞實なる叫びと言はねばならない。一方に於て母性の尊嚴を認め、それをば女性の第一義であると自覺し乍らも、遂にかくの如き悲痛なる叫びを擧げなければならぬ所に、悩みの子、人間をみる事が出来る。

こゝに至つて女性と母性との關係は二者相容れざる如き、即ち二律背反の如き觀を呈する。私はこの事についても多くの論述をもつて居るが、結論を急げば、これとても決して相對的のものでなく、又二者相容れざるものではなく

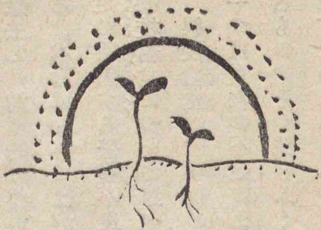
この二者は互に一は他を否定し乍らも、兩者共に攝取せられる一層高次の世界に於て融合されなければならぬと考へるのである。

未だ二者相容るゝことの出来ない現實の惱みの子が、この悩みを否定して一層高次の世界に入るのには、そこには必然的に動亂暗黒がもたらされる。而してこの動亂暗黒の我を超脱せんとするところには又必然的に生命が生々と働く。此の生命のうごきを我れ一念の問題として、自己の深みに沈潜し涙するものが、かの動亂暗黒を超脱し得るものであつて、眞實に自覺せる女性である。決して良妻賢母といふやうな概念沙汰ではないのである。かくの如くにして女性に、人間性に徹したまことの第一歩を踏み出すことが出来るのである。

要するに女性、母性、職業については様々の問題があるが、凡ての女性につき一様に云々すべきではなく、又しかするとは不可能でもあるが、其れ等は、彼女自身の経験と、反省と、思索とを綜合した彼女の個性によつて決定されるべきである。

以上の所論については附帶して論ずべき幾多の問題がある。さうして此等の問題を解けば、以上の論旨はより徹底するのであるが、こゝでは省く。其の中最大なるものは母性並幼児の保護制度であり、次では家庭の科學的管理、男性の自覺等であるが、これ等は既に何程かづゝ解決の機運に向つてゐるのであつて、母性と職業に對する關係は、一般の杞憂をやらげつゝあるとおもはれる。

— 昭和五・七・三一 —



學校給食に關する諸問題

日本大學第四中學校教諭
日本大學第四商業學校教諭

山口幸之助

一

心と物との關係についての哲學論は、今こゝでは問題にしない。本質的なるものがズブスタンチアであるか、イデオロギーな一元であるかはこゝの問題ではない。たゞ教育上の事實より、身心の間には何等か關係があるといふこと、即ち精神的陶冶は、その効果を何等か身體的健全に依存せしめてゐるといふことを知ればよい。

今智能について考へてみるのに、健康なるもの必ずしも高い智能を有し、不健康なるもの必ずしも智能において低いとはいへない。しかしこれらの場合は、むしろ變則的な

特殊の場合であるであらう。即ち前者の場合に於いては、

確かに教育の不徹底と、教授方法の巧拙が關係してゐるであらうし、又後者の場合においては恐らく病的なる變態的のものが多いであらう。かゝる特殊の場合をのぞいては、大體健康は智能に關係するといへる。勿論この關係を正確に示すといふことは決してたやすい仕事ではないであらう

しかし元氣に充ちた子供が、力なき者よりもより教へやすき、又教育の効果をあげやすき状態に置かれてゐるといふことは、考へて當を失しないことであると思ふ。この様に子供を教育しやすき状態に持ち來す一つの要素が健康で

あらねば、教育者はこの健康の獲得につとめ、出來得る限り不健康への下落を防止すべきである。然らば子供を不健康の状態にまで低下せしめる原因は何であろうか。この種の研究こそ最も根元的な問題の一つである。この原因については、現在多くのものが考へられてゐる。内的な原因としては、遺傳や病氣、消化不良等が關係するであらうし、外的原因としては、ハウジングやエアリーング、睡眠・食物・衣服・不潔等が關係するであらう。それ故に子供の健康を計ることは、治療教育學に關係し、醫者の仕事であると共に、両親及學校における注意を必要とするのである。

教育者は両親及醫者と相俟つて、積極的に不健康の原因を除去し、消極的にはかゝる状態への低下を防止すべきである。本論に於いてはかゝる教育的必要より、特に食物の不足に原因する營養不良について論じ、その救済手段として學校給食について述べようと思ふ。

學校給食は、小供の健康について元來二重の意味をもつ。一つは食物の不足による（廣義には更に不適當な食物によるものやその他をふくむ）營養不良を健康體にまでもちきたすためにあたへらるゝものであり、他は防止的性質のもの

のである。即ち前者は貧困な家庭の兒童に關係して重大な問題となり、後者は一般兒童について云ひうる。貧困ではないが、家庭の都合によつて不適當な食事を取らざるを得ない兒童については、この防止的意味は又重大な問題となる。又成長しつゝある兒童は、食事間に何かを要求するといふ意味での給食も、防止的性質をもつものである。かくの如く考へることによつて、學校給食はたゞ貧困兒童にのみ關係することではなく、廣義には一般兒童にも關係する。しかしこの學校給食が欠食兒童について特に重大なる意味を有するのは當然であると思ふ。

元來、教育とは精神陶冶を意味する。教育するといふことは養ふといふことよりは區別さるゝ、そしてこの考は正當である。しかし十分なる教育の成功を期するためには健康は必要條件であるから、養ふといふことは教育を可能にする一つの基礎である。故に教育を不可能にまでする條件は當然取りさるべき必要がある。ターマンは『兒童の健康』の中において、學校の仕事は單に教育することに限られず小供の幸福一切に關するとさへいつてゐる。しかし、これに問題となるのは、食事は元來家庭の仕事ではないかとい

ふことである。學校が兒童に食事をあたへることは、親の權利を侵害するとさへいはれる。しかし、元來食事をあたへることが家庭の仕事であると同様に、教育することも家庭の仕事なのである。スペインサーはたしか彼の『倫理學』

の中に、このことをのべてゐる。しかるに、各種の條件によつて両親は子供を教育することを不可能にされ、代償を支拂ふことによつて他人にゆだねる様になつたのである。故に食事のみが両親の權利否義務であるわけではない。いはんや教育上必要と認めらるゝ限り、教育を學校に委任したる両親は、更に食事も學校に委ねべきであらう。教育は兒童の權利であり、両親の義務である故に、兒童はその教育を要求し、両親はその代償をなす。實に義務教育の要求は本質的には以上の要求と矛盾しないのである。たゞこの義務教育が強制となるのは、両親がその義務を履行せざるとき又不可能なるときである。両親がその義務を履行せざるとき、又不可能なるときに、國家は兒童のために又國民的見地より強制する。この國民的見地こそ、次代の國民をベターにせんとする國家の要求である。而して両親が兒童の教育不可能の場合には、國家の義務とさへ考へらるゝ。

ふことである。學校が兒童に食事をあたへることは、親の權利を侵害するとさへいはれる。しかし、元來食事をあたへることが家庭の仕事であると同様に、教育することも家庭の仕事なのである。スペインサーはたしか彼の『倫理學』の中に、このことをのべてゐる。しかるに、各種の條件によつて両親は子供を教育することを不可能にされ、代償を支拂ふことによつて他人にゆだねる様になつたのである。故に食事のみが両親の權利否義務であるわけではない。いはんや教育上必要と認めらるゝ限り、教育を學校に委任したる両親は、更に食事も學校に委ねべきであらう。教育は兒童の權利であり、両親の義務である故に、兒童はその教育を要求し、両親はその代償をなす。實に義務教育の要求は本質的には以上の要求と矛盾しないのである。たゞこの義務教育が強制となるのは、両親がその義務を履行せざるとき又不可能なるときである。両親がその義務を履行せざるとき、又不可能なるときに、國家は兒童のために又國民的見地より強制する。この國民的見地こそ、次代の國民をベターにせんとする國家の要求である。而して両親が兒童の教育不可能の場合には、國家の義務とさへ考へらるゝ。

において、學校給食は又國家の義務否すくなくとも國家の關係すべきものとなる。

要するに學校給食とは營養不良に原因して、教育教授の効果を不十分ならしむる場合、或はかゝる傾向を未然にふせぐため、學校に於いてなす給食である。而して營養不良が食物の不足に原因するときに、特に重要な社會的意義を有する。勿論學校給食は治療教育學と關係し、營養不良の原因の一つである疾病を治療することに關聯する場合が多く、又子供の不適當なる食癖をも矯正し、更には社會的訓練の意味をも有するものである。しかし學校給食の最も大なる意義の一つは、子供における食物の不足を補充することであろう。根元的な營養が不充分なる限り、確かに教育教授は十分なる効果をあげ得るものではない。たまたま人々は教育教授の効果のあがらざる理由をこの點に見出しうるであらう。故にヘレネ、シモンが『學校給食』の中にいふ如く『學校給食は教授に對する考慮より出發し、その整調は教授の根元を規定する』といへるのである。又エヤードその他の人々の著作『健康なる學校』の中には次の如くに出てゐる。『學校給食には二つの反對する原理がある

しかもこの二つは、現在米國に於いて實行されてゐるところのものである。

第一の考方によると、給食は慈善の問題である。家庭が貧困であり小供に食事を與へ得ぬときにそれをあたへる。その費用については、私の慈善團體が公共團體と協同して支出するのが普通であるが、少數の場合には、公立學校當事者が費用一切を支出してゐるものもある。學校給食に關する第二の考方は、給食は成長しつゝある子供の實際上の必要であるといふ。この見地によれば社會的、經濟的見地は直接關係しない……。」といつてゐる。又ラインの教育辭書にはキルヒネルが次の如く述べてゐる。即ち學校教育の教育的効果をあげるためには、その障害を取り去らなければならぬ。而してこの障害の一つが營養不良である實に營養不足の子供に教育を強制することは、價値なきことであるのみならず有害のことである。故に學校給食は廣義には單に貧乏といふ理由の下にのみ考へらるべきものではない。即ち衛生的教育的見地より見らるべきものである。又モンローの教育辭書には、學校給食の衛生的見地より、又社會的訓練より論ぜらるべしとし、小供の健康、衛生的

習慣養成、營養食攝取、社會的陶冶について論及してゐる。しかし、我々はかゝる一般的意味にかゝらず、學校給食と欠食兒童との關係を特に注意せざるを得ない。

二、

兒童の身體的缺陷の中で最も注意するべきものの一つは營養不良である。成長後に於ける結核もこれに原因するものが多い。しからばこの營養不良とは如何なる程度の状態であるか。又いかなる尺度を以て計らるべきものであるか。勿論この標準尺度は一樣ではない。それは觀察者によつて觀察さるゝ中心尺度はあるにせよ、その標識は數多であるにちがひない。體重はたしかに重要な觀察點をなすであろうが、その他、骨重と身長との關係、一般的容態、子供の實質、皮膚の状態、組織の堅固、皮下脂肪の存在、筋肉組織の發達、粘膜の赤さ、放心の状態、疲勞活潑の表現、鋭鈍の表示、身體各組織の状態等も又注意するべきものであらう。

しかし、この諸々の觀察點に關する確固たる標準を示すことは困難であり、たとひ確固たる標準を示し得たとする

によると、營養不良の傾向は小供の屬する社會階級によつて程度を異にしてゐる。即ち食物の不十分が貧民兒童を營養不良にしてゐるのである。

【註】營養不良の原因は單に食物の欠乏のみに依存しない。不適當な食物、消化不良も關係し、更には睡眠、ハウジング清潔も關係する、殊に小供の屬する家の部屋數と小供の健康状態との間には面白い關係さへあるといはれる。とにかく部屋數の不十分と食物の欠乏は貧困兒童の營養不良の大きな原因であらう。

も、各兒童の有する生得的本質を無視することは出来ない例へば小さい身體を有する者が、必ずしも不健康ではないからである。それ故に、この種の判定には相當に困難なるものあり、又觀察者によつて意見の相異もあるわけである。しかしかくの如く意見の相違はあるにせよ、一般に兒童の健康が現代において不十分であるといふことは、教育者或は醫者の意見の一致するところである。

アーサー、グリーンウッドといふ人の統計によると、英國兒童の二十パーセントは營養不良である。我國に於いて

も、最近の文部省の調査は五パーセントを營養不良兒としてゐる。勿論この兩者のパーセントにはかなりの開きがあり、その故を以て我國兒童の健康状態が英國のそれにまさつてゐるとはいへない。何となれば、いかなる程度を以て營養不良となすかは、觀察者によつて相異があるからである。しかし我々はこの二つの統計を見ても、營養不良兒が大體において少なからざることを知るのである。而して、この營養不良兒が社會階級と關係があるといふことを又忘れることが出来ない。

リヴァプールに於いてアークル博士によつてなされた研究

チエート博士は、營養不良の兒童五七〇人（男三〇七人、女二六三人）について研究をした。その報告によると、男兒童の主に貧困すると思はるるもの二九・五パーセント、女兒童は二六・一パーセントである。又一九一一年になされたテート博士の研究によると、一六七件の中貧困に原因するもの二三・三パーセントありといはれてゐる。又一九一二年の同様の報告書には、ブートルでなされた研究の結果が示されてゐる。それによると五パーセントが兩親の貧困とされてゐる。勿論いかなる程度に於いて貧困が營養不良に原因するかの正確なる研究は困難であらう。しかし貧困が營養不良の大きな原因の一つをなしてゐることに疑

ひはない。この因果の關係について數字的に詳細な研究をしたる人に、ドロシイ、イー、リンゼイがある。彼の『一九一一年より一九一二年の間に於けるグラスゴウ市の勞動階級食事の研究』によれば、一週二〇シリング以上のものは大體において必要な食物を取つてゐるが、それ以下のものは皆不十分である。そしてその結果が直ちに兒童の上にならぬ。即ち彼の用語によれば、「兒童の體重がそれ相應の年齢の平均以下であるときには、大體において例外なく食物が不適當である。」のである。

ラーキンス博士は、又同様の研究において次の如き結論に達してゐる。即ち毎週二〇シリングの定つた賃錢を取つてゐる家の子供は、平均營養状態を示してゐるが、それ以下のものは危険であると。實に營養不良の子供を強いて教育することは、その結果を無効果にするのみならず、かへつて有害である。一九一一年のブラツクバインに於ける學校醫の報告を見ても、同様のことがいはれてゐる。實に成長する小供にとつて營養以上の必要物はない。

一九一二年のリーズに於ける學校醫の報告は、精神的缺陷はしばしば營養不良と關係して見出さるゝといつてゐる

この營養と精神活動との關係については、一九〇七年一月に於ける北部英國教育會議において、ラルフ博士、フロウリー氏によつて「學校兒童の身體的條件」の題下にのべられたことが参考になる。彼等がブラッドフォードの小學兒童一八四〇人について調査した結果、營養との關係を次の如くのべてゐる。即ち營養良好なる兒童は精神能力の優れた者の多數を有し、營養不良兒には低智能者多しと、この種の統計的研究はその他の多くの學校醫によつてなされてゐる。

マンチエスターの學校醫は、營養不良の兒童中六三・二パーセントは平均以下、一二・九パーセントは全くの劣等であるといひ。リバプールにおけるアークル博士の研究も亦同様の結論を得てゐる。たゞこの際注意すべきことは、飢へたる兒童に往々平常以上の智能を發見し得ることである。このことについては、アークル博士は、眞の智能ではなく、飢へたる者の食を求むる聰明であり、この種の兒童よりたまたま罪人を出すと説明してゐる。たしかに注意すべきことである。

又バツヂ博士が「一九一一年に於けるウォールフアーハ

ンプトンの學校醫の報告』に於いていふところによると、十三歳の一二九九人の普通營養兒と、一〇〇人の不良營養兒とを比較したのに、その結果前者の中においては普通以上の智能のもの一六・六パーセント、普通のもの六八パーセント、劣等の者十五・五パーセントなるに對し、後者の中にをいては、順次に優秀一六パーセント、普通五九パーセント、劣等二五パーセントである。かくの如く各學校醫は色々の、しかし同一の傾向ある結論を出してゐるのであるが、サー、ジョージ、ニューマンは次の如く謂つてゐる。營養不良兒が智能において低いといふことは一般的である。たゞ食足らずして神經のするどくなつてゐるものもあるからこの際には教育者は特に注意すべきであると。

三、

兒童の營養不良原因は多々あるが、規則的に衛生的食物を與へることによつて、小供の健康を増進しうることはすでに明のことであろう。このことに就いてはラルフ、クロウリー博士の一九〇七年ブラッドフォードにおいて行はれた研究が面白い。

彼は四十人の營養不良兒について、毎日二回づゝ適當なる獻立にもとづいて給食をなし、給食前に於ける五週間に三回、給食後に毎週體重をしらべ、比較調査をなしたのである。その結果は體重の加速的增加を示してゐる。一九〇九年に同様の實驗がノーサンプトンにおいて四十四人の子供についてなされた。十四週間の間、朝夕二回の食事が子供にあたへられた結果によると、同社會階級の給食せられざる兒童に比して、體重の著しい増加を示してゐる。又一九〇八年の初めに、ランベスにおいてハーゲン、ゲスト博士によつてなされた實驗は同様の結果を示してゐる。又他の興味ある實驗が一九一〇年シェフィールドにおいてなされた。その結果によると、食物の間に營養價について大差のあることが示された。即ちオートミル、ポリツチがコア、ブレックファストよりもはるかに秀でたものであることを示したのである。この種の研究は、又一九一二より一九一三年にわたつてフライトンにおいてなされたが、いづれも同様の結果を示してゐる。

その他肝油や牛乳をあはへた場合の効果も、ベスナル、グリーン學校において、一九〇九年より一九一〇年にわたつ

て(冬期)、五七人の男、一〇九人の女(その中特に營養わるきもの男廿四人、女六一人あり)について實驗された。そしてその結果は次の如くに示されてゐる。

	良	普	不良
男、	五七(以前)	四	一九
	二六(以後)	二八	三四
女、	一〇九(以前)	三	三
	四二(以後)	四九	五七
		六一	六

一九一一年のマクレスファイルに於ける學校醫の報告によれば、「小供は食事より多くの利益をうけてゐる」のである。一九一一年のウオーキンギントンの學校醫の報告によれば、「小供の健康状態は食事の價値を明らかに示す」のである。これと同様の見解は多くの學校醫の報告にのべられてゐる。一九一〇年のロンドン教育會議もこのことを論じてゐる。又一九一二年のブートルにおける、又一九一一年のウオーセスターに於ける報告は、給食の結果、児童の出席率の向上及び傳染病にかゝる割合の低下を述べてゐる。

かくの如く給食が小供の身體的向上に益するところ多しとするも、精神活動に如何なる影響をあたへるか。この給食と精神活動との關係については相當困難なるものがある

しかし我々はその關係について何等か交渉あることを疑はないであらう。しかし、ある教師は精神活動に直接利益なしともいふ。一九一一年フルにおいて行はれた教育委員會においては、一六五人の教員の中七六人は改善的効果を認めたるも、残りの中三六人は關係を認めずといふ。しかし心と物が何等か關聯を有する以上、我々は何等かの交渉を認めざるを得ないであらう。ノース、ケンシントンにおける一九一〇年の教育年報は、給食は身體と共に學級的仕事の能率をすゝめるといひ、ダリントンに於ける實驗結果は、その年報において同様の効果をのべてゐる。かくの如く考へると、大體學校給食は教育的に意味多きものとなる生徒自身の身心の發達を可能にするのみならず、出席率をよくし、級の全體的活動の進展を可能にし、又給食に於いて作法、社會的訓練をうけ更に營養食への轉向覺醒を暗示する。而して子供はマイヤー夫人のいふ如く、「フルス、セクターの食物と家庭のそれを比較する使者となり得る」のである。(以下次號)



職員組織といふ事

神奈川高等女學校長 佐藤善治郎

社會といふものゝ説明のない時から 時の如きは、組織は出來ないが、一つどが出來るのである。

社會といふ組織と活動が存在し、國家の仕事を目懸けて多くの人が共に働く それから標題の職員組織といふ問題

又は家族といふ説明のない時に、國家の場合には、自然に組織が出來る。火事 に入るのであるが、一學校にせよ、一

又は家族といふ實體も活動も存在して が急に起つたとすれば、集つた人は何 官廳にせよ、内閣にせよ、多くの人が

居たのである。これ等の社會、國家又 かの仕事をしようとする。物を運び出 一つの目的に向つて働くのであるから

は家族といふものは、單に人の集合し す人もあれば、人を助ける人もある。 其の各員は組織中の一員となつて働く

たものと見るべきものでなく、其の組 ポンプを押す人もあれば、水を汲んで ののである。内閣組織の場合には、その

織に複雑な結合があり、そして之が組 來る人も出來る。別段に誰が部署を立 意見や、情調の一團體として統一せら

織と活動とを法文に表はせるものもあ てたといふ事ではないが、消火といふ るべき人々を其の中心に立つ總理大臣

る。家族組織に關する民法、國家組織 目的を中心として、斯かる組織が出來 が選んで組織するので、その一部に半

に關する憲法の如きがこれである。 たのである。これが最も原始的な、最 途で意見、感情を異にする者が出來た

集合と結合とは違ふ。集團と組織と も基本的な組織である。平時に於ては り、反對黨の爲に一二の關係が倒され

は違ふ。單に人が集合して火花を見る これ等の場合を想像して、消防規則な る様な事があれば、一角の倒壞の爲に

内閣全體が倒壊してしまふのは吾人の目撃する處である。内閣の組織を以て學校職員組織に比較するは、全體に於ては當を得て居らぬが、部分に於ては同性質のものであると言はれる。

良教育者といふのは、或場合に於て良教育者であるので、如何なる場合に於ても良教育者であると斷言する事は出来ぬ。故に世間でいふ良教育者といふ者を網羅して見た處で、善良な學校組織は出来ない。丁度東郷大將、徳川家達公、頭山滿を集めた處でよい内閣は出来ないと同じである。學校の校長といふのは、現在の有様から見ると、一學校の生徒が多くてその各自に親炙する機會が甚だ少い、故に直接教育の力が乏しい。吾人は考ふるに校長として最も大切な事は、職員組織といふ仕事であると思ふ。新設學校に従事

する場合には、割合に思ふ様に職員組織が出来るが、既成學校に校長として

赴任する場合は、其處に多くの職員がある。之を統一して善良なる組織を立てるといふ事が大切な仕事でなければならぬ。此の時に於て在來の職員に斧鉞を加へる事も大切であるが、それが爲に他の職員に疑懼の念を興へてはならぬ。其處は校長の力量を要する事で、將來一年とか二年とかを期して自分の理想が職員一同に透る時機を待ち、度すべからざる者は機會を見て、之を他に送る事を考へて居らねばならぬ。これ等の考もなく茫然として上席教師の心持で澄まして居る校長もなからうが、此邊大に覺悟する處がなければならぬ。それでないといふ教師には逃げられ、手に残つて居るのはつまらぬ歩や香馬(將基の)になつてしまふの

も愚な事である。

學校の職員會議も、生徒一般の訓示も、一面から考へれば職員統一(適切に言へば職員訓練)の仕事である。職員訓練といふも、我流の主義方針で之を壓抑する態度に出づべきものではない。自分は君主の態度で、衆議を統一して漸次内容を開良して往々態度でなければならぬ。自分に盲従する職員よりも、寧ろ堂々として所見を開陳する職員の方が大に役に立つのである。而して職員會議に勢力のある職員が、學校の眞の力となつて居るのではなくて黙々たる職員が一般職員に勢力を有するといふ場合が多いといふ事も知らねばならぬ。

次には校長に統率せられる一般職員であるが、これ等の多くは他日校長として働くべき人であるから、大に修養

しなければならぬ。部下としては校長に統率せらるべきものであるといふ事は、實際から見ても法文から見ても明らかである。故に校長に信服する事が出来ぬならば、潔く冠を掛くべきである。併しながら學校は決して校長一人の學校ではない。中心は校長であつても、自分等が共同して組織して居るのであるから、少くも自分の存在の理由を明らかにせねばならぬ。昔は政治上に於て「民は之によらしむべし。之を知らしむべからず」といふ時代があつた。今の世は立憲政治になつて居る。吾人に了解せられざる政治など行はれて居らぬ。各自は皆國政に對して發言する權利を有つて居る。投票が實に之を表明して居る。それと同じく教育者として世に立つ以上は、地位の如何に拘はらず献策する權利も義務もあ

る。徒に沈黙して居るは其の職責を汚す者である。言つて行はれぬ事あるも必らずしも怒るべきでない。兎角言はぬ人は蔭で不平を言ふ。甚だ困つた事である。そして常に校長の苦衷も際して學校内容の改良の爲に大に貢獻して、教育者たる本務を遂げたいものである。

◆ ブラウン校長

後援會より

各種團體よりの招きに應じ、度々日本視察談を試み一般社會人に非常なる好印象を與へつてあります。従つて
日加間の國際的友情の増進を圖り
日本文化の加奈陀への移入を促進し
當地在留日本人の前途に好影響を齎らし
加奈陀人の日本視察希望者をも増加させたい
との、私共の企畫の趣旨の一部が達せられつゝある感が致し甚だ以つて慶びに堪へません
これ偏へに貴會の心からなる御援助の賜と深く感謝致す次第で御座います。私共は今後とも同氏等と共にあらゆる機會を利用し、前記趣旨の達成に努力し、以つて貴會の御厚情に御報ひ致したいと存じて居ります。右御禮まで。
敬 具

昭和五年六月十日

英領加奈陀バンクーバー市
晚香坡日本共立語學校内

ブラウン校長

日本視察後援會

禪とは何ぞや
悟とは何ぞや

禪の修養に就いて

江川 太 禪

禪とは何ぞや

禪とは不立文字、教外別傳の法と稱ふて一切の形式を超越した、然かも其の形式を悉く指導してゐる人間生活の根本的の力を云ふのであつて、此の力を私共が明確に識得し、此の力と自己とが融合一致した境地を、所謂安心立命と云ふのである。

昔、洞山良介と云ふ和尚さんに、或る修業する坊さんが一問を發した。『寒暑到來せば如何にして廻避せんや』洞山和尚直ちに『何んぞ無寒暑の處に向つて去らざる』と答ふると、修行僧また曰く『如何なるかこれ無寒暑の處』と

和尚曰く『寒の時には闇黎を寒殺し、熱の時には闇黎を熱殺す』と説明をしたさうである。

闇黎と云ふ語は、貴僧とか、あなたと云ふことで、寒い時は、寒いと云ふ自己を寒さで殺ろせ、熱い時は、熱いと云ふ自己を熱さで殺ろせ、こう云ふ意味で、飽くまで自己の廣大無遍の力の存在を肯定し、自己の環境、周囲、或は制度、などから來る條件を悉く摧破して行く絶大無限の力を現はした問答だと思ふ。従つて、其の力の當體こそ、實に文字、語説の形式を以つて現し得るの法でないことは云ふ迄もないことである。

だが、その力の存在と識得は、今日のマルキスト一派の云ふ妄想でもなく架空的なものではない。

鎌倉武士の典型的武人たる北條時宗が、自著『途の草々』に
齡漸く長するに従ひ、心益々精、才愈々巧なるも、意氣柔弱恰も處女の如し……と。

自己を評し、そして時の高僧、祖元禪師に參禪すること二十有餘年にして頼山陽をして驚嘆せしめた。即ち、相模太郎の膽、蕤の如しと云ふ人格を創造せしめた事實も、禪の識得によつたものである。其の識得の方法を祖元禪師が垂示して

『只管に打座して心身の靜寂を期せよ』と。

尙ほ『行住座臥一切の事務、これ修善の道場なり。これ只管の學道の道場なり』とあるを見ても、私共の日常生活の間に、禪の本質が活躍して居ることが明かである。

悟とは何ぞや

悟りとは、サトリであつて、水の冷たさ、火の熱さを説明しやうとするの愚と同じことである。

然し釋尊は臘月八日、曉天の星を見えて悟道の神秘を獲得し、其の心境を披瀝して

『我與三大地有情同時成道』と

説明したやうに、ヤツパリ各高僧も止み難い老婆心から説明を企圖して、恰度兒供に月を示すための指を説明して終に兒供に月の正體を認めしめなかつた愚事を繰返へしたやうである。

『參道契』と云ふものの中に
事に執するも元これ迷、理に契ふも亦悟りに非らず。とある。

一體世の中のことは、一時も止壓する時がなく、文字通りの浮世が世相である。五感の世界も確固な世界ではなく時と變化極りがない。理智の世界も常に現實の世界と喰ひ違ひ、一向に憑りにはならない。彼の俳人一茶翁はこの世相を「盃から盃に移るちんぷんかん」と道破した。啄木は「さばかり

のことに死ぬるや、さばかりのことに生くるや、よせ、よせ問答』と遂に人生の解決をなげ出して、世相の正體を究はめむことに精進したのである。

人間が自己の一生涯に對して、未解決のまゝで無關心で居られる筈はない一茶翁が世相を『ちんぷんかん』と道破しながら、尙ほ『ともかくもあなたまかせの年の暮』と、未解決のまゝ解決した處に人生の妙味がある。人生の透視と達觀とがあるのである。

永年添つた女房は、亭主の下駄の音を聞き解けると云ふことだ。雜然たる取り止めのない下駄の音を聞き取る心境、これは單に經驗からばかりとは云へない。また科學的根據があるとも云はれまい。理外の理とでも謂ふのだらうと思ふ。

この私達の生活上の形式と思慮との千様萬態の間から、何にも知らない金剛不壞の動きを獲得し、その動きによつて生活を建設して行く時に、忽ちいま迄に肉眼で視えなかつた、自由な廣大な世界の展開が私達の周圍に在ることになり気が付く。そこに悟道の世界があ

るのではないかと私は思ふ。

或る時、越後の良寛和尚さんが、土地のお百姓に、西瓜盗人と夜中間違へられて多勢から打たれた揚句、一晩中生き埋めにされた。良寛さんは黙々としてお百姓のするがまゝに任かせて、朝まで土の中から首だけ出して眼をパチクリ／＼させてゐた。昨夜のお百姓はやつて来て、西瓜盗人は良寛和尚さんであることが解つたので、一同は恐縮して其の罪を詫びた。すると良寛さんは怒るでもなく、また笑ふでもなく土を拂ひ乍ら

『打つ人も打たるゝ人ももろともに如露亦如露電應作如是觀』

と歌ひつゝ、自分の庵へ歸つたさうである。良寛さんのこの寛大さは、お百姓への慈悲だの忍耐だのから現はれたのではなく、ハツキリとした人生の透視と達觀から發露した歩みではないだらうかと思ふ。

悟らないものが、悟りの噂さをしてゐては、益々世を迷路に導く恐れがあると云ふから、悟の話はこれで止めとする。



自由表現の提唱

表現遊戯創作への教育

神奈川縣立横濱第一
高等女學校教諭 小 菅 一 男

□ 兒童の教育に唱歌遊戯や行進遊戯(表現遊戯)を課する目的は、其の考察の方面に依つて種々なる説明を附することが出来る。例へば

- 1 優美さの眞の理解力を啓培すること
- 2 審美的才能を刺戟すること
- 3 より美しく又はデリーケートな、或はより複雑な運動に對する支配力の賦與
- 4 身體の柔軟性の養成
- 5 動作の美的經濟的修練
- 6 心身の調和
- 7 氣分の轉化

8 健康の増進

然し之を要するに、兒童の稚き心線に觸れる歌調の歡喜と愉悅とを、より大により深く味はしめむ爲め的手段に外ならぬ。更に約言すれば、兒童をして美的生活に目覺めしめる爲めの營みである。世の凡ての教授者は皆斯の如き高き理想と抱負とを以つて兒童に望むであらう。そして其の理想と抱負とを實現せんが爲めには、その教材の蒐集と之が練習と教授法の考究とに、苦心慘憺の努力をするであらう。先づ教材の仕入れの爲めには、折角休養の爲めに與へられた暑中休暇を、涼風薫る故郷の山水を後にして上京し、熱風と塵芥と惡氣との渦巻き反へる都會に集つて、多くは

商賣的に開催される講習會に出席して、誠に怪奇極まる身振りを眞似て歸り、更にこの眞似事を純眞な兒童達に強いると云ふ段取りになるのだが、其の苦肉の策たるや同情に値するのである。

私も數年前迄は讀者の大方と等しく、小學校に勤めてゐた關係上、そして表現遊戯を教授しなければならなかつた爲めに、その教材の蒐集と練習とには、四苦八苦の努力を續けた過去を持つてゐる。されば酷暑を侵して講習會に出席される方々の氣持ちは良く汲める。そしてその意氣の壯なる點に大いに共鳴もする。が、然し、その目的に於て、間髪を容れざる所に、理想の齟齬なきかと反省を促し度いと思ふ。

□ 他人の作つた振りの型を眞似る爲めに要する教授者自身の努力徒勞はまだしも、その眞似を又更に兒童に強制するに當つては、最も慎重に考へてかゝらねばならぬ。教授者の大方は、此の種の遊戯の教授法が如何に困難なものであるかを良く承知して居られることと思ふ。殊に童心に即して、純眞性を傷つけないやうに、感興を喚び起し乍ら、稚

き藝術心を目覺めしめる爲めに等と、理想を抱けば抱くほど、教授の後に悔いと不滿の陰影が追ひ迫つて來るのを如何ともし難いであらう。(尤も、そこに氣付かざる程の鈍感な人は仕合である——その代り兒童が不幸であらう。)

試に、兒童に競争遊戯と唱歌遊戯又は行進遊戯と、その何れが面白きか、又は好めるかと問ふて見よ。兒童は言下に「競争遊戯」と答へるであらう。それは兒童のみに限らず、凡ての人が本能的に有する競争心や巧名心を最も端的に満足させ得ると云ふ歡喜が、その主動的力となつてゐるのであるが、自由さと云ふことが又大なる因旨をなしてゐることを見逃してはならぬ。

物眞似をする心は至つて自由放逸なものであるが、全く意味の解らぬ動作の眞似を強制されることは、誠に無味乾燥その苦痛倦怠に堪へざるものである。世の多くの唱歌遊戯又は行進遊戯の教授は、その意味の解らぬ所作の物眞似強制である。運動會が近づいたと云つては、教授者は周章して、材料の仕入れにかゝり、しかも自らも練習不足のものを授けやうとするのであるから、いやもう大變な騒ぎ——腹立たしくなつたり、悲しくなつたり、泣いたり、泣かし

たり、その狂亂の後が結局また失望——こゝに覺醒もなければ、更生もなく、同じことを年々歳々繰り返へしてゐるのであるが、習慣と云ふものは良くしたもので、新卒當初の若々しい焦燥は何時の間にか何處へやら、五年十年と経つ頃は、所謂悟り切つて了つて、何をやつても熱もなければ感じもなく、氣ざな辯解で誤魔化しつゝ自らを卑しめて恥ぢぬ様になり行くのである。斯くて兒童を誤り、自らを胃潰し、教育の神聖を汚して行くのである。

私は前に、唱歌遊戯や行進遊戯の目的は、約言すれば「兒童に美的生活に目覺めしめる爲めの營みである」と云つた美的生活とは、美の創造と鑑賞とを目標とする生活である物真似は決して創造ではない。強制は決して鑑賞を意味しない。新時代に適應する吾人の高唱は創作への教育でなければならぬ。

詩は何時如何なる場合にも存在する。然し多くの凡人はその感力に準備が乏しい。感じて之が表現の手段を知らぬ。こゝに於て創作への教育は、その準備として、將來應用自在たるべき基本的訓練を必要とする。物真似は結局物真似に終つて、そこに靈の躍動がない。そこには教ふる

者も授けられる者にも歡びがない。勇みがない。

吾人が創作への教育に於て採る基本的練習法は、石井漢氏の研究所で實施してゐる練習法にヒントを得て考察せるものである。元來創作と云つても、全然孤獨を行くものはない。必ず一つの流れの中に流れてゐるものである。極言すれば、よしんば最初それが物真似だつたにせよ、それが悉く皆我がものとなり、自分の魂が乗り移つた時は、その時は既に物真似の境を脱してゐるのである。この點、物真似より創作への理法も成立する。唯吾人の見解は、完成への途中に於ける時間と、精力との最も經濟的にして最も應用が自在で、無理なく最も自然的に行はれ得る練習法を探らんとしてゐる迄である。

或る人は「純舞踊家の練習法をそのまま、直接學校教育に採用することには無理がありやしないか——危険ではないか」と云ふであらう。この點杞憂ながら一言するならば、「純舞踊家なればこそ、流石に合理的な練習法を編み出しもし、魁けて實行もしてゐるものよ」と、見る人は必ず關心するであらう。吾人の提唱は、あの練習法にヒットを得て、過去に於て窒息するやうな苦痛を嘗めて來た、私の體験より創案したものである。されば合理的に立案されてゐ

るから、若し之を系統的に實施するならば、之が現代に於ける最新確實なる教育法であらうと信ずる。その内容については此の稿では詳しく發表する餘裕を有たぬが、要約すれば、音樂の拍子に對する肉體的表現法である。表現遊戯（舞踊も方向が一致してゐる）では體重の移動に對する平均の保持が、最も基本的動作であり、その連續が表現遊戯の動作である。舞踊は、音樂の有つてゐる内包の肉體的表現の所作であるから、先づ拍子に對する肉體的順應性を養ふことが大切である。即ち拍子に順應する歩行又は跳躍に伴ふ身體支配の訓練が最も大切なる基本的練習なのである。基本的練習が良く行つてゐると、音樂に應じて自在に踊るやうになる。音樂の内包がひし〜と靈魂に喰ひ込んで來て踊らずにゐられなくなる。そこに創作があり表現遊戯が生まれる。元來表現遊戯は生れるもので、意思的に作るのであつてはならぬ。

兒童の魂は素直である。感ずるまゝに受け入れて、又天真に表出する。兒童の所作はそのまゝで立派な詩として見られる。然し乍ら只餘りに斷片的であつて、統整がない。之を統整して纏つた表現遊戯たらしめるには、こゝにその基本的練習として、拍子に對する肉體的表現法の充分なる練習が必要となつて來るのである。その基本的練習法とは

例へば二拍子ならば

等の如く、凡ゆる形式の拍子を掲げて、之を單調なものより漸次複雑なものへと順を追ふて、之に對する歩行、跳躍の基本的練習を行はむとするものである。次に四拍子、三拍子、六拍子等と反復して置けば、即ち響に應じて魂が肉をして踊らしめるのである。

右の趣旨に依る系統案を、一年より順次學年を追ふて實施しやうと云ふのである。

因に此の練習法は物真似黨の爲めにも甚だ經濟的、有効な基本的訓練であることを附言して置き度いと思ふ。これ即ち、自由表現の提唱である。

自由畫の提唱は、圖畫教育革新の鐘であつた。自由表現の提唱また表現遊戯教育革新の警鐘でなければならぬ。小管教諭は、その創案になる表現遊戯指導のため、夏休縣外數府縣の招聘によつて、講師として出張の忙裡本篇の執筆の勞を煩はした次第で感謝に堪えません。(編者)

□形式
□使用法
□□反省

地理學習ノートについて

藤澤高等女學校 年 繩 秀 治

地理學習上に於けるノートの問題については、今までに種々と論ぜられたことであらう。又今後とも意見を聞くことが多々あるでせう。しかし又ノートなど末の問題であるとして一笑に附してしまはれる方もあるでせう。私にも多少なりと意見がない譯ではないが、さういふ方面は別として唯私がこの数年間の経験のみによつて得た結果を二三御報告申上げて、大方の御批正を仰ぎたいと存じます。勿論最初にノートが必要か否か。この問題を解決して行かねばならぬのですが、それからかゝりますとくどくどと獨言みたいなことを並べねばなりませんから、其のことは最後に一寸申添へる程度に願ひませう。

只今申上げますノートを工夫いたすまでには色々形式内容共に澤山の階梯を踏んで来たものと御承知下さい。又今後とも變化して行くものであることは勿論のことです

一、形式

大きさは普通大學ノートといはれてゐる程度のもので、厚さは洋紙三十六枚です、一冊で一學年分使用できるよう

に致しました。現在十八錢であります、大量生産にいたしましたなら、ズツト安くなると思ひます。一頁を上下二段にわけて、其の中間に約五分の幅の空間を作ります。そして上段は更にそれを縦に二分して左へ方眼を作ります。欄外には、月・日・頁等を記入できるよう致しておきます。方眼は縦二〇横十五に割ります。線の色は極淡色の青を用ひます。なほ方眼は、開いた時に左右對稱の位置におかれるようにいたします。以上の通りです。

二、使用法

上段の方形は主として地圖を描かせることに使用し、方眼は種々のグラフを作らせ、中間の細長い空地は、斷面圖又は見出しを書きます。下の欄は生徒の自習用とします。なるべく一地理區の事項は一頁又は二頁の間に無駄なき様おさめます。これだけでは御了解になりますまいから、其の一例を申上げます。

關東地方の自然地理を、假りに考へると、グラフには、横濱、前橋、足尾、水戸、布良の溫度並に雨量を夫々作り

ます。この場合、横濱なら横濱の溫度と雨量を同一の所へ描き、他所のは他の方眼へ記入して比較に便ならしめる。雨量は下に一月より十二月までの月名を記入し、左方に一劃二五耗として五〇耗毎に數字を記入し、溫度は上方より右側に四〇三〇と一つおきに記し、零度の所へ朱線を入れます。雨は青、溫度は赤ときめておきます。これで大體氣候による地理的單元決定の準備は出來ます。

上欄の餘白へは、關東の自然地理圖を描かせ、河川と山地と平野とを明瞭にします。斷面圖は、東西に切つたもの又は山麓地方、或は箱根等特種のものを描かせる。下段には必要事項を記入させる。次の頁上欄には、桑畑の分布圖其の次には野菜畑、交通系統等を描かせ、其の考察事項又は相關々係を下段に記入いたします。かくして進むのであります。あまり具體的ではありませんが、大體以上の如き有様です。

三、反省

何事にも賛否に出てるものでありまして、誰も之で充分だと考へるものは少ないものです。私は自分で信ずる方面へ進みたいと考へます。最後に二三此のノートの問題について考へたことを書いて御参考に供しませう。

形式を定めると、形にとらはれ過ぎ易いことが一番缺點

で、次に時間に不足を來しやういこととです。教師が必ず材料の精選をして充分豫定を立てて掛らぬといけない爲め、非常によい研究になります。何處も彼處もみんなこんな様に進むといふ譯では勿論ないけれど、特色ある地方及び模式的地理區に於ては殊に面白く行きます。随つて私は作業本位の地理、又は、特色地理といふような題目の下に、後日系統的に書いてみたいと存じます。

科學としての地理學を根底として、其の上に立つ教科目としての地理である以上、充分教育的價値を擧げるには地理學其のものを教へる以上、尊い何物か其の間に含まれて來べき筈です。されば、色々の意味でノートの必要を力説して行きたいと考へます。

更に地理區の決定には、多くの場合に自然地理を最初に考へさせることが最も近道であり、同時に必要なことである。(曾つて田中教授もかく言はれた) さすれば研究の道筋は、地方は異なつても大體同じであるとみて差支へないことゝに於て形式を定めることは決して無益のことではなからうと存じます。

以上を以つて、つまらぬことながら大體御報告申上げたつもりです。もしか私の考案いたしましたものでも御望みならば進呈いたしますから御批正下さい。

多摩丘陵の研究

都筑・鐵校長・野義一

- ▽外 觀
- ▽成因
- ▽地層の物語る過去の記録
- ▽多摩丘陵と人類の生活

一、外 觀

小佛の北から浅川が流れて多摩川に注ぎ、小佛の南から境川が流れて片瀬江ノ島の邊で相模灣に入る。この多摩川と境川に挟まれた一體の地形は、晩幼年期から壯年期に解析された丘陵の起伏重疊たる地貌を呈する。これが今述べようとする多摩丘陵である。

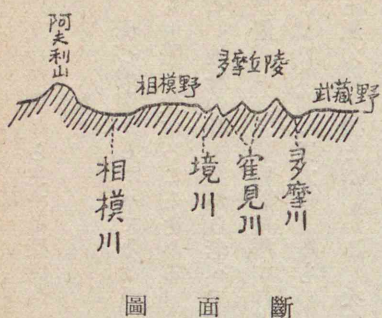
小田急の客車に身を任せて新宿を發すると約三十分、二五軒の行程で多摩川に達する。この間、唯、誰やらの所謂何等

特色のないのを特色とする武藏野である。海拔四十米から四十七米の臺地がなだらかにうねつてゐる。

電車が多摩川を越すと直に四周は狭まつて谷間を走る。これからは多摩丘陵地帯であつて、稻田村から生田村と、多摩川の支流が作った横谷に沿ふて進む。やがて切通しを過ぎる、この切通しは丘陵の一つの脊梁である。この切通しを過ぎると、鶴見川によつてあざやかに浸蝕された無数の小谷を見うける。

しばらく鶴見川の谷を走つて第二の脊梁である經塚のトンネルに入る。地圖をみると前者も後者もその嶺は百米以上のものがあり、全體を見渡しても皆五十米以上であつて、高度に於ても武藏野とは急に差異をみせてゐる。

第二の脊梁を越えると、あまり解析の進んでゐない町田川の谷に出る。この谷から除々に上り勾配になつて、海拔八十米の臺上新原町田驛に着く、多摩川より約十三軒である。



斷面圖



鳥瞰圖

原町田を出ると直に水量の乏しい境川を越える。これからは坦々たる相模臺地で、見渡す限り桑畑さへぎるものもなき臺地を電車は直線に進んで相模川に達する。

以上車中の觀察は多摩丘陵と、其の兩側の地形との比較に便であり、兒童の遠足に、逸してはならぬ重要事項の一つである。これを斷面圖、或は鳥瞰圖に現すと一層判つきりする。

二、成因

三二

以上の概観から生ずる疑問が、この丘陵地と、その兩側の地形との差異に對する考察、延いてはその成因について考察してみたい。

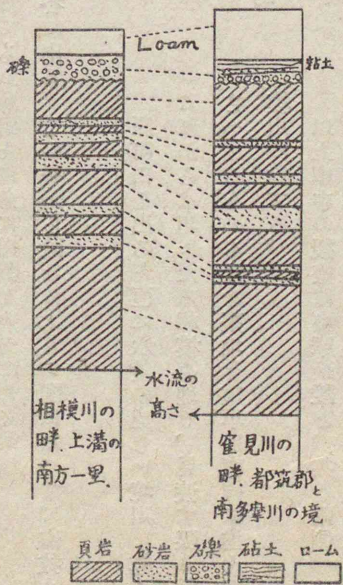
先づ成因から考へてみよう。僕はこの爲に丘陵を作つてゐる岩質を調べてみた。下の地層の断面圖によれば、その地質も大體一致することをみる。

この地層の断面圖から考へて、頁岩、砂岩、粘土、礫は水成層、ロームは廣義に解すれば水成層に入るべきだが、今こゝでは別に風力によるものと考へる。これで河流の堆積と風力の運搬とがわかる。次に上部頁岩と礫層との間が不整合になつてゐることに氣付けば、これは此地盤が一たんに上昇して浸蝕をうけた後、一回沈降して上部に堆積を行ひ、再び隆起したものと考へられる。と、すれば隆起運動と沈降運動も、現在の地形を作る大切な役割を演じたのだ。

さてかうして沈降、堆積、隆起、浸蝕の重輪廻に於ける多摩丘陵は、現在では主に鶴見川が彫刻の任に當つてゐる。が併しこゝに堆積を行つた河流はやはり鶴見川であらうか？ 或は多摩川か？ 相模川か？

これは前記の地層断面圖と、今一つ等高線の配置を眺めると、どうやら相模川であらうと考へられる。

大洞山(二〇六九M)、或は雲取山(二〇一九M)から端を發して、多摩川はその山脈の谷の出口青梅あたりから、急に展けて軸を東方に走らせる扇狀地を作つてゐる。ところが、相模川は山中湖から流出して西北に流れ、次に北東に屈曲し、



大月の邊で更に東に走り、津久井郡川尻村の邊から南屈して、相模平野を流れてゐる。この川尻邊から東南に一つの扇狀地が出来たと假定して考へると、現在の相模平野も、多摩丘陵も、その等高線の配置は正しくこの扇狀地であると思はせる。たゞ多摩丘陵の高度と、相模臺地の高度とが、境川を境として急に差異をみせてゐることは何かといふに、これは其の後の斷層によつて、相模臺地は低くなつたと思はれる。

三、地層の物語る過去の記録

第三紀の初めから、日本列島に起つた地殻の擾亂について、矢部博士はこれを四つの時代に區分せられた。一、秋津沈降時代、二、高千穂隆起時代、三、瑞穂沈降時代、四、敷島隆起時代。

この瑞穂沈降時代が、古生代以後、本邦に起つた最大の海浸時代といはれてゐるが、當時は現關東平野は淺海をなして魚介の住家であつた。三浦房總の二半島は連續し、更に丹澤山塊に連なつてこの一大灣の南縁を作つてゐたであらう。鬼怒川、渡良瀬川、利根川は、北方の山地から南流し、碓氷川、神流川、荒川、多摩川、相模川は西方關東山脈に横谷を作つて夫々東流し、こゝに大堆積を行つた。

これらの堆積物は、現在多摩丘陵地に於ては、頁岩、砂岩の互層として見得るものである。この互層は、地質時代に於ける氣候の變化を物語るもので、砂岩が頁岩に比してその層厚が薄いといふ事は、水流の運搬力が増大する期は、周期的に來たが短かつた。

かくて瑞穂沈降時代の末期から、地殻に複雑な運動がはじまり、幾多の斷層沿邊、隆起沈降が行はれた。

この時、關東平野一帯は、總體的に隆起してここに堆積されたデルタに浸蝕が初つた。

相模川も多摩川も、自ら造つたデルタに流路を自由に幾條も作つて氾濫をたくましくしたであらう。これは丘陵地の到

三三

る所にみうける薄い礫層がこれを物語る。

この頃、多摩川は現村山貯水池のある（これは多摩丘陵と等しく古三角州）狭山村邊を東に流れて武蔵野を作つてゐたであらう。相模川の氾濫原はずつと東方に緩斜して、東京邊までのびてゐたであらう。

ところが、其の後斷層が現多摩川と境川に沿ふて行はれた。多摩丘陵地は殘されて所謂殘塊臺地となつた。これから多摩川は再び新しい堆積をはじめ、相模川は狭められた。現相模野に堆積を行つた。

そのうち氣候の大變化があつたとみられる。それは氣候の乾燥により、火山灰土が風力により盛に運搬され、關東特有のロームを堆積したと考へられる。そして更に局部的に斷層が行はれたであらう。かくして再び水量が増加せる時、多摩川も相模川も、斷層谷に沿ふて流路を作り現在に及んだ。

以上記した以上に、更に丘陵上に於ける局部的變化について言はねばならぬが、この點については未だ調査もすゝんでいない爲に、又限られた紙面でもあるので略すことにし、次に簡単に人文上の事について記したい。

四、多摩丘陵と人類の生活

人類の生活が、單に衣食住を以て足れりとするなら、この丘陵地は最適の土地であらう。水は清淨を誇り得ぬも充分である、土地は肥沃なり、薪炭又不自由ならず、もし夫れ我等の先祖が穴居生活をしたとしたなら、この土地の地質は軟にすぎず硬にすぎず、その穴が住居に使用されたか、或は墓穴に使用されたか、又は所謂隠れ穴に使用されたかは未研究なるも、とにかく丘陵地の到る所に古き穴を発見することや、古器の破片をみうけることから、この土地は太古から我等の先祖が愛する郷土であつたらう。吾人は自立を尙ぶも、人間の多くは或程度まで頼他的である。この頼他的な精神が山を要求する。實際山脈を背景に有することは力強さを感じる。多摩丘陵の起伏は小さい乍らも、人々のこの要求にかなつて

ゐた。

昔時はこの丘陵上の高所に居を定めてゐたらうが、農業の發生進歩と共に、漸次谷に下つてこゝに居を占めることが便利となつたであらう。この故に鶴見川の谷々は最も早くから開墾されてゐた。經濟時代別けによる農業時代に於ては、最も人に聚落の發達した土地であつたらう。然しながら、農工業時代、農工商時代と進歩してきた現在、この丘陵地はこの經濟發達の進化と併行することは出来なかつた。これは丘陵起伏せる地形が、交通上に支障を來す所以と、東に大東京、南に大横濱を控へて、勢力は皆この大都市に集中されて了つて、この所太古以來の安住の地は忘れられた形となつた。然しながら、人々は今再び、この郷土に目覺めて來てゐる。大都市に活動する生活戰の戰士が、安息の夕を求むる所、それはその都市に近きこの丘陵地である。曩日、横濱貿易新報社で行つた縣下住宅地の投票が、この丘陵地の周邊に多くの人氣を集めてゐたのも宜なるかなである。

要は更に交通の便をつくして、大都市との連絡をはかり以て相互發展を期すべきである。

神奈川縣 中等學校 師範學校 入學選抜問題と其の答へ方

△試問を受ける皆さんへ

△昭和五年度口答・筆答問題と答へ方

△昭和四年度口答・筆答問題

△參考の諸問題

□九月十日發行

□菊版約三八〇頁

□發行・横濱中區蓬萊町二ノ三〇

神奈川縣國定教科書特約販賣所

大規模の國勢調査施行

今秋十月一日を期して全國一齊に國勢調査が行はれます。今回の調査は之を「昭和五年國勢調査」と稱し、第一回國勢調査以來、十年目に該る大規模の調査でありまして、調査事項も第一回に比し、所屬の産業、失業、従業の場所及住居の室数の四項を増加してあります。今其の概要を申し述べて見ますと次の通りであります。

一、國勢調査は何の爲に行ひますか

國勢調査は、國家社會の實狀を調べ其の國に於ける社會組織の内容と、國民生活の實況とを審にし、施政の基礎を作るのが目的で、全國一齊に一人一人に就いて、實地の調査を行ふのであります。國家が繁榮し、國民が幸福になるには、常に時代に適應して、國家の制度や、社會の組織を整頓し、行政の施設でも、産業の經營でも、出来るだけ無駄や重複のない様にすることが大切であります。

それに就いては、先づ國勢の基本を正確に知る爲に、國勢調査を行はなければなりません。第一回國勢調査を行ひましてから、今年十年目になります。此の十年間は恰も世界大戰の後を承けて、我國の經濟狀況や、社會狀態に著しき變化がありましたのみならず大正十二年の大震災の爲、地方に依り

二、國勢調査は何を調べますか

今回行はれる國勢調査は、本年十月一日午前零時の現在に依り、内外人の別なく(一)氏名 (二)世帯に於ける地位 (三)男女の別 (四)出生の年月日 (五)配偶の關係 (六)職業 (七)所屬の産業 (八)失業 (九)従業の場所

(十)出生地 (十一)民籍又は國籍 (十二)住居の室数を、實地に就いて正確に調べるのであります。

右の事項は、國勢の基本を知る上に最も必要なものでありまして、其の一つ一つに就いて見ましても、非常に大切なものであることが分ります。即ち

(一) 氏名を調べると

調査が正確になるばかりでなく、國家社會成立の基本になつて居る人口の總數や、各地方集團分布の狀況などを知ることが出来ます。

(二) 世帯に於ける地位を調べると

社會生活の單位である世帯構成や、家族制度の現狀を知ることが出来ます。

(三) 男女の別を調べると

人類社會の二大部門であつて、道德風

教に至大の關係がある男女の釣合を知ることが出来ます。

(四) 出生の年月日を調べると

國民の活動力や、生産力の尺度である年齢別に依る人口の構成を明にする事が出来ます。

(五) 配偶の關係を調べると

國民増殖の本源であり、又社會が健全であるか否かを察知する標準である縁事上の狀態を知ることが出来ます。

(六) 職業を調べると

國民經濟發達の程度を示す職業分化の狀態を明にし、國民の健康に重大な關係のある事柄を知ることが出来ます。

(七) 所屬の産業を調べると

各産業に對する生産力の分布を知り一國の經濟組織や、産業組織を明にす

ましては、人口が根柢から覆へされ其の分布の有様は一新し、職業構成や産業組織も更まり、延いて生活狀態も全く面目を改め、其の影響は全国各地に及んで居ります。随つて定例の調査とはいふものゝ、此の一變した社會狀態を正確に調べ、其の正確な統計に依つて、あらゆる國家の施設を行はなければならぬのでありますから、今回の調査は、第一回調査に勝るとも劣らない重大な使命をもつものであります。

ることが出来ます。

(八) 失業を調べると

失業者の數や、失業の割合を知り、現下の社會問題として最も緊切な失業に關する基礎資料を得ることが出来ます

(九) 従業の場所を調べると

晝間活動時期に於ける人口の分布を知り、住居地従業地間に動く人口の移動を測定することが出来ます。

(十) 出生地を調べると

過去に於ける人口移動の趨勢、殊に都會集中の模様を知ることが出来ます。

(十一) 民籍又は國籍を調べると

内外交通往來の一斑や、内地人、外國人の混入狀態などを明かにすることが出来ます。

(三) 住居の室数を調べると

國民の保健・衛生・風教に重大な關係のある住居の密度を知ることが出來ます。

以上の事項を互に關聯させて見ると尙幾多の重要な事實が明となり、所謂國勢の基本が明瞭になるのであります。随つて中央及地方の行政はいふまでもなく、各般の社會施設や、諸種の産業經營や、軍事計畫などには、なくてはならない基本資料を供給するのであります。

三、國勢調査を何時に行ひますか

國勢調査は、十月一日午前零時(九月三十日から十月一日に移る夜半)現在の狀況に依り、世帯に居る人々に就い

て、前に述べた十二の事項を明にするのでありますから、世帯主は一々正確に調べて、それを國勢調査申告書の用紙に認め、國勢調査員の來るのを待つて、提出せられたいのであります。調査の時刻は夜半であります。調査員が深夜各世帯へ調べに行くのはありません。此の調査は社會の實狀を寫し取ることが趣意でありますから世帯の人々は、調査の時刻に成るべく平常の狀態を變更しない様に注意せられ、世帯主は誤りなく記入して申告せられる様に心掛けられたいのであります。

四、國勢調査を如何に行ひますか

内閣から任命せられた國勢調査員は九月二十一日から受持區内の準備調査に着手して、遅くも同月三十日まで

には各世帯主に、國勢調査申告書の用紙を配付致します。各世帯主は十月一日午前八時まで、右の用紙に、十月一日午前零時現在の狀況に依つて、自分の世帯に居る人々に就いて、調査事項を正確に調べて、有りのまゝを記入し、調査員の來るのを待つて、申告書として提出するのであります。若し調査員から何か問はれた時は、成るべく速く正直に答へられたいのであります。

五、國勢調査に就いて一番に何を求めますか

國勢調査の事業は、調査員其の他の係員が如何に周到な注意を以て之に當りましても、それだけでは十分ではありません。國民の一致協力があつて、始めて完全に調査の目的を達成するこ

とが出來るのであります。調査の事項は、見た所が至極簡單で、而も平易であるからといつて、此の大切な國勢調査の實行を軽く視ることのない様にありたいのであります。又調査の事項は、何れも誰の前でいつても差支のない事柄であるのみならず、申告せられました事柄を公表したり、他に漏したりすることは、嚴重に禁ぜられて居りますから、思ひ違ひをして、申告を嫌つたりすることのない様に、ありたいものであります。正直に、正確に申告せられたことが集まつて、最も大切なものになるのでありますから、國の爲地方の爲、誠に緊要なものであることを能く理解せられ、自ら進んで、正確で正直な申告をせられたいのであります。

既に前二回の國勢調査は全國民の一

致協力に依つて良好な結果を得たのであります。今回の調査には、更に従來に勝る好成绩を挙げ、此の文明事業に

於て、我が國が世界の模範となる様に呉々も十分の注意を希望する次第であります。(了)



山重忠靈堂の建立

山重忠の墓のある都筑郡岡村鶴ヶ峰では、重忠の靈堂を建立しようといふ計劃中でありませぬ。此の遂行の爲に目下社會の贊助を仰いでゐるわけですが、次の様な方法も講じて居ります。

「武士の鑑鏡人格の権化山重忠」の小冊子を、趣味的叙述により青少年男女の讀物として出版し、(四六版二四頁―筑前琵琶鶴ヶ峰も附して)重忠の生涯を普及すると同時に、靈堂建立の喜捨を兼ねて一部拾錢で配布し、部数が相當ましまれば一部五錢當りで配布する計畫の遂行を期して居ります。

一五頁の數行を抜いて見ます。

流石は剛勇無双百戰練磨の重忠であります。「これは定めて讒者のしわざであらう、この際本城を引きあげ籠城したならば、無實は却つて有實となり……中略……末代までの名譽ぞ」と、泰然自若として決死の覺悟を示しました。

人格的武士として、郷土に親しみの深い重忠の靈堂建立の美舉に賛意を寄せらるゝお方は、都筑郡岡村鶴ヶ峰山重忠靈堂宛御照會あるよう紹介致す次第です。

二宮尊徳先生を偲ぶ

報徳デー

神奈川縣女子師範學校附屬小學校

七月二十三日は、わが神奈川縣が生んだ世界的の大偉人

二宮尊徳先生の誕生日である。當校ではこの日を報徳デー

と稱し、二宮尊徳先生を敬慕すると共に、報徳の精神を涵

養する目的で左記要項によつて實施した。

甲 全校としての實施要項

一、期日と名稱 七月二十三日 報徳デー

一、前日の行事

〔一〕 揭示教育と印刷物

屋内體操場の大黒板に當日の行事を書いた上、次の如き

二宮先生の歌を揭示した。

天津日の恵みつみおく無盡藏

歛で堀り出せ鎌でかりとれ

天つちの神と皇との恵にて

世をやすらふる徳に報えや

米蒔けば米の草はえて米の花

咲きつゝ米のみのる世の中

蒔く米と生立つ米は異なれど

みのればもとの米となりぬる。

去年の實はことしの種となりけり

今年のみより來るとしの種。

聲もなく香もなく常に天つちは

書かざる經をくりかへしつゝ。

ふる道に積る木の葉をかきわけて

天照神のあし跡を見む。

見たせば遠き近きはなかりけり

おのれ／＼がすみかにぞある。

ちう／＼となげきかなしむ聲きけば

ねずみの地獄ねこの極樂。

身をつとめ分を守りて譲りなば

本かたまりて邦のやすさよ。

次の印刷物を職員、教育實習生及び高等科兒童に配布した。

語原……論語……徳を以て徳に報いよ

天……四時循環萬物生成

地……草木生じ禽獸繁殖

人……王侯天下を治め人生を安んず

至誠……私利私欲の念を去り良心の命令を遵奉す……神と合一

勤勞……積極……衣食住の三によらずば生活を全うする能はず

分度……消極……社會上國家上の地位を自覺し本分を守る

推讓……奪ふてゆづらざれば禽獸に等し

分譲……自己のため子孫のため、全收入の二割

他讓……他人のため 同 五分

〔二〕 二宮先生の唱歌練習

各學級で唱歌の時間に練習した二宮先生の唱歌を、朝禮

の時に全校として豫め歌はせて、悪い所を正した。その歌

詞は左の通りである。

○あしたにおきて

わらじつくりて

道ゆくひまも

あはれいじらし

○勤儉力行

山にしばかり

夜はふくるまで

書をばはなさず

この子誰が子ぞ

農理をさとり

世に報徳の 教をつたへ
荒地ひらきて 民をすくひし
いさをのあとぞ 二宮神社

〔三〕各學級實施事項

各學級で如何なる學習を如何にするか、報徳デーに於ける實施要項を主事の手もとまで提出してもらつた。さうして各學級では報徳デー當日の行事に對する準備を周到に行つた。

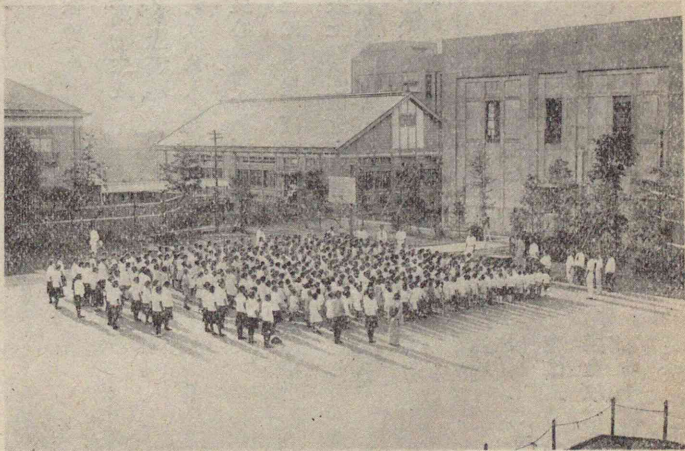
一、當日の行事

(1) 午前六時三十分迄に登校

前日の朝禮のときめられた時間より、餘り早く來るのも遅れて來るのも感心できない。六時から三十分までの間に登校するのが上手な來かたであると話したので、六時十五分前後に來たものが最も多かつた。而かもこゝしなから元氣よく登校した。

(2) 松浦主事訓話 (校庭の二宮先生銅像前で)

兒童職員は六時三十分の振鈴とともに校庭の二宮先生幼時の銅像前に集合した。日本晴の心地よい朝だ。涼しい風が生々した兒童の顔をかすめて通る。主事は報徳デーの意



義からはじめて私達の銅像前で本日の行事の大意を話し、二宮先生の立派なことを少しでも眞似をしたい。尙これからも眞似をしようとして銅像に約束しなければならぬと職員兒童皆瞑目して誓つたのである次に二宮先生の教義に就て天道と人道とを説き人道は勤勉がその中心である。

世の中に花もみぢも金銀も

與へてあるぞ精出してとれ

果報はねてまでではならぬ。勤勉する人は萬物を化して

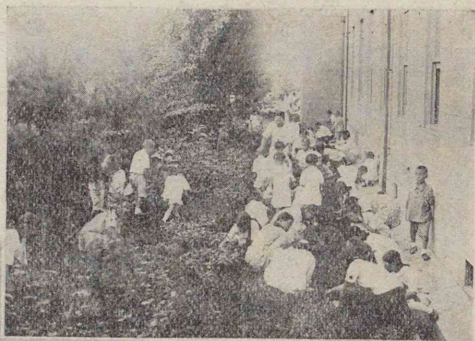
黄金となすの術を有すといふ
金言を引用し、古今東西の偉

人は皆勤勉力行の人であつた
私共は大に働かなければならぬ。働け働け、又働けと、結んで壇をおりた。(記念撮影)

(3) 唱歌 (二宮先生の歌)

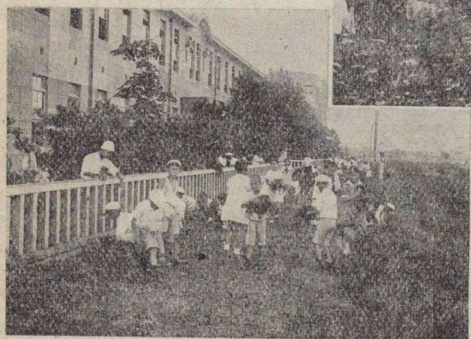
猪飼訓導の伴奏によつて五百の兒童、四十の教育實習生十五の職員の中から歌つた。

「あしたにおきて山にしばかり……」の唱歌は、柴を背負つて大學を讀んでゐられる銅像を前にしてゐるだけに、感激にみちみて、何ともいへぬ一種のリズムとして響いた。



(4) 校庭の草むしりを主とした勤勞

まづ各學級受持の花壇を中心として草むしりがはじまつたのは六時五十分、尋一の可愛らしい子供が一生懸命で喜んで草をむしる。高等科の大きい姉さんがむしつた草を塵取りに集めて運ぶ、箒ではく、



見てゐるうちに、どん／＼草がなくなつてきれになる。

子供も先生も有志の保護者も、皆一つになつて働く光景はとても筆紙のよく盡くすところでない三十分間はすぎた。引上げの合圖ははる。働いたあとを見て共同作業の偉大なことを痛感した。(記念撮影)

(5) 朝食 (各自用意の梅干入りの握り飯を食べる)

勤勞したあとの食事の美しいこと、きれいになつた校庭を眺めて、心地よい氣分で手や顔を洗ひ、子供と先生と一緒になつて大きな日の丸辨當を食べながらこゝ／＼顔。今朝は特別においしい、きらひな梅干も好きになつて口中へ自然に入つて行く。

(6) 平戸訓導の二宮先生のお話 (講堂にて)
午前八時十分、本校の講堂に全校の児童も職員も教生も集つて二宮先生のお話をきく。

今から百四十四年前の天明七年七月二十三日、わが神奈川縣足柄上郡櫻井村柏山に誕生された、二宮尊徳先生の略傳から話は初つて、二宮先生の孝養と勉學と勤勞と至誠とをわかりやすく話し、二宮先生の歌

むかしまく木の實大木となりけり
今まく木の實後の大木ぞ

を引用し、最後に
明治天皇御製

おのが身はかへりみずして人のため
つくすぞ人のつとめなりける
を拜誦して結語とした。この間約四十分。

(7) 各教室にて學習 (二宮先生に關することを加味して) 午前九時から十一時まで
各學級に於ける概況は後出。

(8) 晝食 (朝食と同様梅干入り握り飯)

(9) 二宮先生幼時の銅像繪葉書頒布

二宮先生幼時の銅像を建設したのは昭和四年の十二月これを建設するために児童は毎週一錢づつを貯金してゐる毎週金曜日には各自が勤勞によつて得た一錢や、お小遣ひのうちから貯金した一錢を出し合ひ、これを一年間繼續して銅像の費用が出来るのである。従つてこの銅像の繪葉書は児童にとつては忘れることの出来ない記念物である。

(10) 午前十一時無事終了

乙 各學級に於ける實施事項

(一) 尋常科第一學年 (島村級)

(一) 唱歌——二宮先生の歌

(二) 圖書綴方——二宮先生の銅像、本日行事の様子等を發表

(三) 二宮先生のお話、先生の祖父、父、父との死別、母への孝養。

(四) 銅像の繪葉書は自宅の机におく、寫眞はさみに入れて立て、おくことを約し、見るたびに今日のこと

を思ひ出させて自己鞭撻の資料にあてる。

(二) 尋常科第一學年 (湯淺級)

(一) 講堂で聞いたお話の復演

(二) 二宮先生の唱歌

○あしたにおきて……………
喜んで何回も合唱した。

(三) 二宮先生幼時のお話
尋常三年の修身書にあるお話を題材として童話的に取扱つた。

(四) 二宮先生の銅像の寫生
暑いのに銅像前で嬉々として寫生した。觀察も可成鋭く色彩も相當で豫想以上の成績を得た。

(五) 主事先生も私の學級にお出になり、握り飯を一緒に食べながらお話をされたので子供は大満足であつた。

(三) 尋常科第二學年 (花田級)

(一) 圖書展覽會

尊徳先生の報徳の四綱要中、児童の生活に即するもので

特に當校児童にとつて必要なものは勤勞であらと考へ、その實踐に努力した。

圖書學習としても勤勞を意味する思想畫を自由に表現させることにし、月曜日に家庭への通知を發送する時、本日の行事を話し、課題として勤勞してゐる場面を觀察してくるやう約束した。この計畫で實施した所、銅像を寫生したものが多かつた。成績を教室に展覽して各自に觀賞させたら、相當によい作品も發見されよい批評も出た稍劃一的な感はあつたが、二宮先生に因んだものばかりで愉快に思つた。

(二) 二宮先生に關するお話
イ、先生の尊父逝去後の孝心について

ロ、御兩親歿後の萬兵衛方における勉學について
ハ、廢物利用品の蒐集

(三) 廢物利用品の蒐集
ゴールデンバット、マツチ殻を利用せるものを持參した児童があつた外に別段なかつたが、今後遺棄品のないやう注意することを申合せた。多分これからは學用品を大切にするやうにならう。

〔四〕尋常科第二學年

(猪飼級)

(一) 二宮先生の徳行に因めるお話
萬兵衛方における勉強振り、土手坊主、グルリペンといふあだ名から、勤勉家、忍耐強いこと、儉約家、親切者であつたことを童話的に話した。

(二) 先生の徳行中から児童の共鳴せる點の實行を決議した。

忍耐強いことが最も共鳴、そこで前に用意せる報徳帳に記載して直ちに實行を期した。

(三) 廢物利用の手工製作

豫め用意せる古葉書を配布し、土瓶敷の製作にとりかゝる。児童の熱心なことに驚く。特に嬉しく思つたのは、児童が互に助け合つて一人も出来ぬものもなく、廢物が利用されて立派な土瓶敷が出来上つたことである。これが児童の家庭に土瓶敷として置かれることを思ふと、意義深いことではなからうか。

(四) 梅干入り握り飯を食べてゐる所を記念のため撮影した。

〔五〕尋常科第三學年

(江端級、夏莉級)

(一) 男女合同して誕生會の學級學藝會を開催
はじめのごあいさつから、をはりのごあいさつまで、二十番に餘るプログラム、唱歌に圖書に、お話に朗讀に、ピアノに遊戯に、手工に劇に、などに手品に、單獨に合作に合唱に、愉快に二時間を過した。

(二) 翌日の仕事課題

早起き、草むしり、誕生會、先生のお話についての感想を綴方、圖書、手工等、各自の得意の表現能力を發揮して發表せしめる。

〔六〕尋常科第四學年

(遠藤級)

(一) 學級報徳デー開催

目的、全校の報徳デー實施事項を、更に具體化し特殊化して、學級として又は個人としての學習體驗を深め、將來への生活躍進の暗示たらしめる。

實施事項○握り飯の朝食、晝食の會食

○體驗により得たる感想發表及描現、體驗による意識の

内面的躍進の過程を知るために、綴方、書方、圖書等に表現せしむ。

□講話 報徳教の四綱領について、至誠・勤勞・分度・推讓について平易に講話し、各兒の體驗事項を理論づけ、將來の生活に對する暗示を與ふ。

□展覽 二宮先生に關する寫眞、繪葉書、繪畫及兒童作品を教室に掲示し展覽させた。

(二) 學級誕生會

目的、學級經營の一行事として實施せる事を、殊に二宮先生の生誕の日に因みて開會し、本月生れの四友の誕生を祝ふと共に、本日の特殊デーの意義を深からしめる。

實施要項——開會の辭、二宮先生と今月の誕生者、報徳デーの感想發表(綴方作品朗讀)お話、手品、など、誕生者のお禮、唱歌(二宮尊徳)閉會の辭、二宮先生銅像前で晝食、會食中本月誕生者を中心とする記念撮影。

(三) 感想

郷土の生んだ偉人二宮先生を中心とする統一的訓練に意を注ぐやうになつてから約一年、その間、朝禮時の訓話或は銅像建立基金としての一錢貯金等の經驗を通して、

兒童の生活經驗中からは、相當眞剣な善の萌芽が生れてゐる。

尋常科の卒業兒童が、報徳の精神を體して銅像の周圍に松の木を植ゑた自發的奉仕も一つである。毎週金曜日の一錢貯金も、報徳の精神に基いて如何に持參すべきかについては、小さい彼等の精神的經濟的生活の一大革命であつた事は、その後の學用品の求め方及び方整理等の變更をみても、又「どうして一錢貯めましたか」の記録をみても、明かにうかゞはれる。家庭に於てもこの趣旨を充分諒解して、學校と同體となつて後援してゐられることは何よりも喜ばしい事だ。

本日の報徳デーの如きも、午前六時半校庭集合である。遠方から登校するものは、四時頃には仕度をせねばならぬ。然し誰一人遅れたものはない。「ふと物音が目さめた。枕もとの時計は四時半だつた。飛びおきて顔を洗ひに行つたら、もうお母さまは握りめしを作つて居られた」と、子供は述べてゐる。

平生は食物の好嫌を多く言ふのに、今日は皆一齊に梅干入りのむすびだ「僕は梅干は大嫌ひだつたが、働いてか

ら食べたらいいかつたので、四つ食べてしまった。これから僕も梅干が食べられる」と、綴方に告白してゐる握り飯が大へんうまかつたので、晝の分も少し食べてしまった。かうして働いて食べればどんなものでもおいしい。よく本に「こじきは一生飯の味を知らないとかいてあるが本當だ。働きもせずに頭を下げて人にお金や食べものを貰つてゐてうまい筈がない。御飯をおいしく食べるには先づ第一に働くことだと思つた」と述懐してゐる體験殊に生活團體に於ける共同體験は、吾人の生命に偉大な内面的躍進を與へるものだといふ事が如實に感じられる。勤勞の尊さは體験を通じて始めて強く意識出来る。況んやそれが自發的行動であつてこそ尙更である。六時半集合前二十分位には、早く登校した子供が手に手に竹箒を持つて運動場をはいてゐる光景は涙ぐましいまでの感激であつた。

「大きな草だ、引ばつてもなか／＼抜けない。恰度高岡君が來たので、二人で力を合せて引ばつたら、土がむく／＼とわれてぬけた。二人は一度に共同は大切だねといつた。……草むしりした後で食べたにぎりめしのうまさ

働いたあとの氣持よさ。どう考へても氣持がよい。これも皆勤勞のおかげだ」體験による勤勞の尊さは兒童ばかりではない。共同體験の快よい感謝は教師も共に捧げてゐる。

學級學藝會も、二宮先生を中心としての誕生會だけに、いつもより活氣があり尊いものがあつた。會が自治的に規則的に幹事の手によつて行はれたこと、父兄の有志が學校の趣旨に賛同して共に勞作をされたこと、朝早くから女中の手をまたずに、凡て母親が親しくにぎりめしを作られたこと等は感謝に堪えぬ。兒童、學校、父兄が三位一體渾然融合して、たとへ瞬間的にでも君子の樂を樂しむことは、教育にとつて缺くべからざる尊い營みであると思ふ。

〔七〕尋常科第四學年 (山口級)

前日二十二日火曜日、最後の學習の時間をさいて、二宮先生の勤勉刻苦して人となられた経路を簡單に話し、明二十三日を如何に過すべきやを相談した。

二十三日いよ／＼當日だ、約束された通り、今日は二宮

先生の尊い心や行を、少しでも自分の身内に見出すべく、身の周圍に仕事のあるかないかを注意する日である。

子供等は前日の誓ひ通り、登校の道すがら見出した紙屑の類を持參した。「芥は汚いが拾つた心は尊いものだ。それでも汚いと思ふものはお母様に袋の不用なものをいたゞいてそれに入れて來るとよい」といつた——言葉が組の全部に行届いて、うづ高く盛られた塵芥に愉快さを味はつた。

先着の二三の子供が、「通行路の大きな石をのけて公益を計りたい」と、昨日の實行案に兒童の一人の答へから思ひついたといつて、始業前使丁室から竹箒を借り出して、ビチュマルスの上をすつかりはいてあつた。

草むしりがすみ、朝食をとつて、平戸先生の訓話が終つてから、彼等の努力によつてあつめられた圖畫、書方、手工、二宮先生を題材とした單行本、又は雜誌を背面に貼つたり並べたりして開いた小展覽會の前で、今朝運びこんだ芥と共に努力のかたまりを撮影した。現れは小さいが、これまでにした彼等の努力を尊く思ふと共に、これによつて二宮先生に對する印象が、今までより深まつたと思ふと嬉し。

續いて學藝會。二宮先生は獨學をされた。兒童は彼等自

身で工夫し、題も選び出演法も研究した。二宮先生は德行の人である。彼等にはこの學藝會で、二十四日に別れねばならぬ教生へ謝恩の意味を現はすやうにいつた。これによつて見られた工夫創作の一例としては、幕の必要を感じた彼等は、小黑板と小黑板の間につなをひいて、風呂敷三枚を糸でつなぎ、その引幕の上を糸で吊した。かうした初歩の幕は、子供の成長につれてどう發展してゆくか。會の最後は二宮先生の歌でむすんだ。それから四女の作品をあつめて作つた「二宮先生を思ふ」の小雜誌を一冊と、校庭の二宮先生銅像の繪葉書一枚を渡して學級の行事を終つた。最後に一言、今晚、終日の仕事を反省して、來年の自分ばかりありたいとの希望を定めておく様に約束した。

〔八〕尋常科第五學年 (内海級)

□朝食時の會話

藤井「先生もう食べていゝんですか」

先生「一寸お待ちなさい。まだ來ない人がありますから」

北島「一人、二人、三人……まだ六人來ません。僕見つけ

て來ます」

神 「あゝくたびれた。だけど草も随分あつたがきれいなつたなあ」

筋 「うんものすごかつたよ、けれど氣持がいゝなあ」

神 「早く食べたいなあ、先生まだですか」

握り飯包を机上にあげて今か〜と待つてゐる所へ、どや〜と五六人入つて來た。

北島 「先生來ました。食べさせて下さい」

先生 「では食べませう、ずる分お腹がすいたらう。」

北島 「もうべこ〜です」

全生 「いただきます」「いただきます」

「うまいなあ……」「うまいなあ……」

先生 「どうしてこんなに握り飯がおいしいのでせう。」

高木 「お腹がすいたからです」

先生 「平常なら握り飯の辨當はいやだといふだらうね。」

東山 「先生僕は梅干の握り飯なんか大嫌ひだけれど、先生が持つて來いとおつしやつたから、仕方なしに持つて來たんです。だけれどお腹がすくとうまいですね。」

先生 「早起きして朝食前に仕事をすると、どんなものでも

うまくたべられるのだ」

高木 「ぢやこれから早く起きて、庭でもはいてから御飯を

食べやう。」

渡邊 「君にそんなことが出来るかへ」

高木 「やる氣なら出来るよ、ねえ君（隣の人に）僕はきつ

と出来ると思ふ」

渡邊 「まあ三日坊主だらうけれどやつて見給へ」

高木 「馬鹿にするな。かう見えて……もこれだ」

と、赤銅色の腕をつき出して、机の上を一つたたく、この時一せいに笑聲わく。

天野 「あつ君のおにぎりは大きいなあ、僕の二倍位あらあ」

木村 「あつあつ、山田君は上にのりをまいて來た、間島君

もだ。ぜいたくだ、いけなんだよ。二宮先生はのり

まきなんて食べなかつたよ。」

大原 「先生筋君は梅干の代りに鱈節を入れて來ました」

筋 「だつて僕、梅干を食ふと舌があれしてしまうんだもの」

大原 「でも一つ位はいゝだらう。僕のを一つやるから食べ

てみたまへ。きらひだつて今日は食へるよ」

筋 「おゝしよつぱさ」

と顔をしかめて食てゐる。他のものは「あゝうま〜〜」といひながらにこ〜して頬張つてゐる。

津田 「先生はいくつ持つて來ましたか」

先生 「三つだ」

津田 「足りませんか、二宮先生はいくつ位食べたんですか」

先生 「さあたいてい三つ位でせうね」

津田 「でも二宮先生は、體が大そう大きくつて丈夫な上に

よく仕事をされたからもつと食つたでせう。」

鈴木 「二宮先生は馬鹿の大食ひはされなないよ」

小川 「君、五つか、そんなに食ふと馬鹿の大食ひだよ」

藤井 「よせよ、おひるの分もだよ」

小川 「さうか」

筋 「あゝうまかつた。やつと安心した。先生もう草をとる所はありませんか」

先生 「もう附屬の方にはないから、あとは本校の方だ」

山田 「本校の方もとつていゝですか」

先生 「取つてもいゝんだがまた後にしよう。平戸先生のお話があるから」

〔兒童の綴方〕

平戸先生の話 五男 小川

「お父さん！どうかしつかりして居て下さい。僕すぐ薬を買つて來ますから」といつて、金次郎先生は、ありつたけの力で小田原さしてかけ出しました。

「お父さんの容態はどうだらう、少しはよくなつたかしら早く家へ急がう」と、心配しながら先生は家へ歸つて來ました。家はしーんと静まりかへつて物音がしない。

「お父さん！只今、お父さん！」

「お父さん！お父さん！」

お父さんのそばにかけよつた時は、お父さんはもうつめたくなつて居らつしやいました。金次郎先生はわーつと泣いてうつぶしてしまひました。

この話をしてゐられる平戸先生の聲はふるへてゐました泣き聲を出して話して下さいました。僕はきつと平戸先生は、金次郎先生にひどく同情して氣の毒に思つて居られるのだと考へました。

「お父さん勘忍して下さい。こんなことなら薬を買ひに參るのではございませんでした。私が悪うございました。お

父さん……」

と、金次郎先生は、お父さんの胸の上に手をかけました。平戸先生のお話は、僕等の胸を強くうつて永く忘れられないものとなりました。

報徳デーの朝 五男 筋 敏 夫

朝飛び起きて時計を見たら四時二十三分。洋服をきて下へ来たたら、お父様もお母様もねえやも起きてゐた。口をすゝぎ顔を洗ふ。ねえやはにぎりめしをつくる。顔を洗ひをへると僕はバスケットと辨當を小わきにかゝへ、「いつてまゐります。」と家をとび出した。「きうきう〜」僕の靴はいそがしげになつてゐる。停留場へつくと、二三人のものが待つてゐた。向ふから電車の音がして来た。四百二十三號だ。僕の大すきな電車だ。わりびき切符をかつて見た。面白い切符だ。朝日が出た。二十分位で大和町、これから女師坂だ。握飯の朝飯を食べる前に草むしりをするのだと思ふと、いつもあがるのにえらいこの女師坂も、今朝は平氣でかけ上つてしまつた。

〔研究発表會と誕生會〕

二宮先生の研究 幼年時代、逸話、報徳訓等について、

兒童の研究発表。

星の研究 金星、水星、火星、その他傳説神話についての研究発表。

七月八月の誕生者に對するお祝と誕生者の挨拶。

〔九〕尋常科第五學年 (稻木級)

(一) 報徳デー展覽會並に小學藝會

- 1 二宮先生に關する畫の創作及び寫眞の蒐集並に展覽、書方成績の展覽
- 2 兒童各自の行について反省し、報徳の教にかなつた様な事實を文章繪畫に表現し、又は話方をなす。
- 3 各自最近の勞作品の展覽。
- 4 廢物利用品の展覽。
- 5 唱歌話方等を主とした學藝會。

(二) 引續き行ふ事項

- 1 廢物利用品の製作
- 2 金錢出納簿の記入
- 3 四綱領からみた反省星の記入(特に夏休中)
- 4 報徳デーに關する感想記録の整理。

(三) 綴り方の成績

二宮先生のお話 五女 小林マリ子

平戸先生はお話をつゞけてゐる。善右衛門さんから二百文もらつて家へ歸つてくる途中、一人のおぢいさんが松苗を買つて下さいといふ。金次郎先生は、あはれな六十ばかりの老商人の顔を見、その年を考へて自分のなくなつたお父さんの事を思ひ出した。

「買つてもよいが植ゑる地面がない。」

「あなたの知つた人で誰か買つてくれる人はあるまいか。まだ一文の商もしない。これでは一服の薬も買はれぬ。どうかこの老人をたすけると思つて、心あたりへ世話して下さい。頼みます。」

「おぢいさん子供があるんですか。」

「お前さん位の子があるが、病氣でこれをうらないと薬を買ふことが出来ないため、かうやつて松苗をうつてゐるのです。」

金次郎先生は

「では買つてあげませう。」

おぢいさんはいつた。

「あなたは今買つてもうゑる所がないといつたではありませんか。」

すると二宮先生は「酒匂川の土手にうゑる。すれば村のためにもなり、おぢいさんのためにもなる。」といつた。

二宮先生は一生けんめいかせいだ自分の金二百文で、自分のために買ふでなくて、人のため村のために土手に松をうゑた。何といふ美しい心だらう。私はそのうつくしい心に感心した。

校庭の草むしり 五女 木下美和

校庭の草むしりは面白かつた。あの校庭の草むしりはいつまでたつても忘れられない。

二宮先生はどんな仕事でも苦にしないで、一生けんめいなさつたが、私たちは一寸やるともうくたびれてしまふ。こんな弱虫ではいけない。けれども、昨日の草むしりは皆一生けんめいにやつたので、早くきれいに出来た。いつもうちでやるときはいや／＼するのに、昨日の草むしりばかりはかへつて面白かつた。それはきつと二宮先生の御心を

よくかんがへてゐたためであらう。いつも皆この氣持である
るとよいと思つた。

〔十〕 尋常科第六學年 (添田級)

(一) 説話

- イ、二宮先生の幼時の孝養
- ロ、少年時代の忠實と勤勉努力
- ハ、壯年時代の發展と健脚

(二) 感想發表表

- イ、問答式發表表
- ロ、綴方として發表表
- ハ、話方として發表表

(三) 實行案作製

- イ、中心點把握……説話及び其の他に就て
- ロ、兒童の出来る實行案考察
- ハ、特に休暇中の實行案作製
- ニ、本年度中徳目決定……報徳

(四) 報徳の眞義解釋

- イ、徳の意義

- ロ、何故に報ゆべきか
- ハ、現時の世の中と報徳の價值

(五) 公に對し敬意を表はす

- 1 黙想……實行決心
- 2 敬禮
- 3 唱歌

〔十一〕 尋常科第六學年 (西村級)

□七月二十二日の仕事

- (一) 二宮先生のお話(略傳につき)
- (二) 明日の報徳デーの意義及びこれが覺悟について説話
- (三) 二宮先生に關する書物を有るべく多くよみて、神奈川縣の生める偉人の言行に深く感銘する様課題

□二月二十三日の仕事

- (一) 午前六時半集合、一人の遅參者なきを喜ぶ。
- (二) 主事先生のお話をきき、唱歌をうたひて先生を偲ぶ
- (三) 草むしり。
- (四) 平戸先生の講話……感動深し。
- (五) 二宮先生をしのび今日を記念するため學藝會を催す

開會の辭、獨唱、謎、一口話、合唱、劇、お話、獨唱、朗讀劇、閉會の辭

(六) 二宮先生の銅像寫生とその成績展覽

〔十二〕 高等科第一二學年 (加藤級)

(一) 教室内の整理

共同購入物、共同用具の整頓及び修理。

(二) 報徳お話會

- 1 二宮先生の報徳の精神についての話
- 二宮先生の逸話を主として、至誠勤勞分度推讓等の大體を話す。

2 兒童相互間に話された要項

- 二宮先生の幼時に於ける事蹟
- 夏季聚落に於て見聞した兒童の感想談
- 二宮先生の勉強ぶりはかうであつたらうと想像しながら發表

○自分の小さい時の回顧談

○「土と芽」(週刊印刷物)の發刊

3 兒童相互に申合せた事項

附言

- 毎日二宮先生銅像附近及び學校園の手入をしよう
- 裁縫室圖書室の整頓に一層力を入れよう
- 紙の利用に注意しよう
- 人のためになる事を毎日やらう。——以上——

なるべく詳細にと思つたが、重複をさけ、繁簡よろしきを得るやうにと努めた爲め、或は意をつくさない所もあらう。或は不明な點もあらう。而し全部通讀下さるならば、當校の意のある所が大體は御諒解下さる事と思ふ。
「二宮尊徳先生と現代教育」「現代の教育上から見た報徳」「郷土教育としての二宮金次郎先生」「教育勅語と二宮先生」等研究すべき好題目はいくらもある。同志の手によつて、大に研究調査の上發表されることを希望する。



再び信仰的教育の急務を叫ぶ

京都市外修學院 加藤 三太

一
私が頃日信仰教育の急務を絶叫して各府縣教育界多數の共鳴を得たと共に御誌の讀者諸彦にも清讀を仰ぎ得たことは、邦家のため欣幸とする所であるされど信仰といへる熟字が、從來宗教上に限り用ひられ來つた習慣上、私の所謂信仰の意義を、千に一つも信教的を含めるかの如く誤解され易い嫌ひがないでもないから、今は信仰の二字に「的」の一字を加へて、兩び私の眞意の那邊に在るかを説明することとした。以下卑見を詳述するに先だち、私の提唱せる意義を、更に他の語を以て言ひ

表はずならば、我國明治維新後、今日迄の如き信仰を基礎とせざる教育では決して教化の徹底を期し得べきものではないから、今後の我國教育には、既成宗教に偏せざる正しき信仰觀を各教科の上に織り込み、以て信仰化せる教育方針を執ることの甚だ緊要にして、而かも最もその急務たることを唱道するに外ならぬのである。

二
抑々私が之を提唱せる所以は、輒近我國社會の風潮が徒らに物質の文明に憧がれ醉はされて、我國國有の精神文明の有りがた味を忘れ、只物質の利害の火災視して袖手傍觀すべきにあらざ

の上層下層を問はず、概して物質萬能の潮流が全國に漲り、只管物質的生活を以て人生生活の全部と思惟する者次第に増加し、其の弊害の及ぶ所は、既往三千年間全く精神文明の力を以て國體の精華を發揮し得たりし光輝ある我國の歴史を、或は久しからずして蹂躪さるゝの恐なしとも保し難く、故を以て、之れが對策につき當事者が百萬苦慮しつゝあるは多とすべき所であるが私の觀る所を以てすれば、徒らに聲のみ大にして姑息緩漫なる眼前糊塗の彌縫策に類する如きものは、今日の如く不健康状態に陥れる我國の病的思想は、果して根治し得べきや否や、大に疑はざるを得ないからである。されば赤誠一片愛國の志ある者は、その官に在ると野に在るとを問はず、之を對岸

の火災視して袖手傍觀すべきにあらざ須らく眞摯にその病源を探究し、之に投ずる根本治療の適劑を發見すること

三
刻下の急務であらうと思ふ。

さらば其の病根とは何ぞ、そは言ふまでもなく、年々人口の増加と共に經濟的生活の脅威がその近因に相違あるまい。然しながら私をして言はしめば如何に經濟的に窮すればとて、腹の底に何物か確乎不動の信念が潜んで居つたならば、國民としての根本思想までも動搖する如きことは決して有り得べき筈がなく、然るにそれが動搖するといふことは、ツマリ確乎不動の信念が培はれてないからであつて、而して斯かる確乎不動の信念なきものが、

四
こゝに於て、所謂その確乎不動の信念なき最大の遠因を檢討すると、維新後數十年間、餘りに西洋の物質文明を憧憬して心醉摸倣せるの極、上述の如く我國固有の精神文明の有りがた味を忘れて、歴史をも無視し、加ふるに時代に即して宇宙の無限大即ち絶對に服従する信仰觀を有せず、何事も理屈を以て捏ねまはす徒輩が増加し、義務を

も履行せずして権利の主張のみを先とし、之に伴ふて主我的利己的の念のみ増長し、何事に對しても「當り前だ」といへる横着な心が全思想を支配して終に敬虔心の缺如せるに至つた所から事物に對する感謝の念を奪ひ去られた爲であると、私は斷言するを憚らぬものであつて、かの鐵血宰相ビスマークが故伊藤公に向つて「日本には立憲政治を布いても信仰が無いから駄目だ」と喝破したことを顧み、今更ながらその明言であつたことを痛切に感ぜしめらるゝのである。

五

故に今日以後の我國教育者は無論のこと、國民全體が大に覺醒して、何よりも先づ貴き宇宙觀の下に合理的信仰

觀を樹立し、その正しき信仰觀によつて行住坐臥天地神明に對し、一切萬有に對し謝恩の生活を營みつゝ、各自の本務に對し、眞面目に其の心身を投げ出して、勇猛精進するに至らしむる方法を講ぜざれば、百の計畫も千の對策も、すべて一時のお祭り騒ぎに終りて徒勞に歸せんことは、疑を容るゝ餘地が無いのであるから、時代に即する正しき信仰觀念は、何れの社會何れの階級に向つても、私は之を唱道鼓吹するの急務を感じてゐるのであるが、何よりも先づ、學校教育に信仰化せる指導方針を執り入れんことを強調して止まない次第である。

六

尤も是等の具體案に至ては私とて相

當意見の無い譯ではないが、爰に詳述しては多岐複雑に渉る嫌ひがあるから、そは他日の機會を待つこととし、只繰返して曰はん、私の所謂信仰的教育とは、決して宗教を教育に採り入れんことを要求するものではなく、國家的宗教の現れざる限りは、何れの宗教と雖教育に取り入るゝことは我國の現狀態として困難であるといふことを。最後に私の提唱せる信仰的教育の意義を、今一度語を換へて曰はゞ、信仰心は必しも既成宗教に待たずとも培はれるものであるから、現時の教育に信仰を基礎とせる情操教育を加味し、指導方針を信仰化せしめんことを強調するものである。(完)

一般救濟的聾啞教育及義務教育としての聾啞教育法

「口話並に手話兩式の教育方法に依らざれば其の目的を達し難きこと」

元公立盲學校長兼教諭
元聾啞學校長 兼教諭

平 岩 繁 治

聾啞兒も國民の一員たる以上、國民として必須なる教育を受けしむることは、國家の義務であり、且つ國民一般の責任であり同情であると思ふ。幸に大正十二年八月勅令を以て聾啞學校令を發布せられ、同十三年四月實施以來、着々と該教育の發展向上を見つゝあるは、まことに斯道教育の爲め慶賀に堪へない次第である。従來我が國の聾啞教育方法は、明治八年京都に於て該教育を開始以來、手話式の教育法を採用し、過去五十年間に於て相當の成績を擧げたのである

然るに歐米に於ては、夙に聾啞教育は手話式に依らず、口話式に依るを以て完全なる理想的教育方法とし、數十年前早くも其の實施を見、今日驚くべき實績を示し、實に我が國の聾啞教育と比較し、天地雲泥の差ありてまことに羨ましき次第である。我國に於ても、歐米口話教育の顯著なる實績に鑑み、數十年前より口話教育方法を漸次試むるに至り、未だ歐米の比に非らずと雖も、口話教育の可能なることを確認するに至り、將來我國の聾啞教育は、主として此の口話式教

育方法に依つて施行せらるゝの機運に向つて來たのである。聾啞教育は、聾啞兒失官の原因及就學年齢の多少等に依つて、同一なる教育方法を以て教授することは困難にして、各聾啞兒の能力並に受學すべき年限の長短等に依つて、適當なる教授方法を選定することが、各聾啞兒の尤も幸福なる所以と考ふるのである。即ち口話式教育に於ては、入學の際種々の方法に依り、各聾啞者の智能検査をなし、其の適否を決し、口話教育に可能なるものを採用し、不可能者と認知し

たるものは採用せざるを原則として居るのである。且口話教育は其の基礎的教育を施す必要上、手話教育方法に比し長年月の受學を要するに依り、年長者其他家庭の事情等により、永く受學する事困難なるものに對しては、特別なるものを除き寧ろ手話式教育方法に依つて、短年月に手取早く日常必須の教育を施すを以て適當と考へる。

口話式教育に可能ならざるものと雖も、長年月間該教育を施行したならば稍其の目的を達し簡易なる發語讀唇を解し得るに至るれば、其の勞苦と長年月の時間とを手話式の教育に用ひたならばより以上の目的を達し、寧ろ本人將來の爲め利益幸福と考へるのである。

故に歐米先進國に於ては、口話教育に可能なるものは勿論、口話式學校に

は、口話及び手話式の學校を設立して各聾啞者に適當なる方法に依つて教育すること、一般聾啞者救済の理想であるけれども、各地方現時の財政状態に於ては、到底兩校を設置することは困難と思はるゝが故に、現在口話式教育を行ふ學校、又は將來口話式の聾啞學校を設立せんとするものは、先づ手話式聾啞教育を行ふべき分校を設置して、口話教育不可能者又は其の他事情あるものを收容して、是れに適當なる教育を施すべき設備をなすを以て頗る良策と信するものである。

然して、其の分校の位置はあまり遠すぎては不便でもあるし、且つ獨立學校を設置すると同一の經費を要することになるのである。又あまり近すぎても兩校の生徒が互に往來して口話教育の妨害となる場合が多いのである。故

於て亦口話式教育に可能ならざるものは、手話式學校に於て各適當なる教育を施して居るのである。又一校に於て口話式及手話式の兩教育方法を採用し各聾啞者に適切なる方法に依り、最善の教育を施してゐる所もあるのである

前述の如く、聾啞教育は聾啞者の能力及び家庭の事情等に依つて、口話式並に手話式の兩教育方法を必要とするのである。故に出來得べくんば口話式聾啞學校及び手話式聾啞學校の二校を設立して互に連絡をとり、その目的に向つて進展を計ることが、尤も完全なる方法であると共に、廣く聾啞者の最大幸福であるのである。然るに、口話式及手話式の兩校を設立することは多額の經費を要し、大都市等を除き、各地方に於ては種々の事情に依つて先づ困難と考へるのである。

に其の位置の問題は適當に考慮する必要があると思ふ。

以上其の概要を述べたる如く、一般廣く、義務教育的聾啞教育は、多少の輕重はあるとしても、口話及手話兩式の教育方法に依らなければ其の目的を達することは極めて至難であると思ふ故に口話式及び手話式の兩教育方法は宛も鳥の兩翼の如く、車の兩輪の如く必要欠くべからざるものであつて、然も健全なる聾啞教育の發達並に一般廣く救済的及び義務教育としての聾啞教育は此の二途の方法に依らざれば、其の目的を完全に達することは出來難いと思ふのである。尙此の二途の方法は決して二兎を追ふのものに非らざることを附言して置く次第である。

六〇
さればとて、同一校内に口話及手話の兩式方法を採用することは、完全なる設備の無き限り全く異なる教授方法を行ふもの故、不得策にして、特に口話教育の爲めに大なる障碍となり、其の目的を達することが困難におちいるのである。

口話式教育を採用する學校に於て、口話式教育に不可能者なるが故に、折角入學を希望したる者を謝絶すると云ふことは、手話式聾啞學校設置の無き所に於ては誠に氣の毒で、其の情に於て忍び難いものがあるのである。場合に依つては其の縣市教育費を負擔して居ながら、我が子は口話式教育に適應せざるが故に入學を斷られ、就學することの出來無い悲惨なる無純を來たすこともあるのである。

以上述べし如く、完全なる聾啞教育

印刷物寄贈並に 児童成績品に關 して

左掲の文書は、臺灣總督府文教局から神奈川県學務部宛七月十八日附でまゐつたものです。本誌に掲げて周知方を講ぜらるゝものです。(編者)

貴縣下ノ小學校主催ニ係ル各種展覽會等開催ニ當リ、印刷物並児童成績品ノ寄贈及出品方ニ關シテハ從來一々御依頼ニ應シ來リ候モ、近來此種ノ照會著シク激増シ、當府トシテハ一々御希望ニ應スル事到底困難ナル状態ニ有之候間、自今、府縣廳主催ニ係ルモノ、外、一小學校或ハ小團體ヨリノ照會ニ關シテハ應シ兼候條、事情御含ノ上貴縣下各小學校ニ其ノ旨御通牒方相煩度、右御依頼候也

本縣
主催

理科研究協議會要録

要項日程 狀況概略 協議狀況 講評指導

要項

昭和五年七月四日

於横濱市共進尋常高等小學校

一 神奈川縣學務部教務課

小學校理科教育の振興を期せんが爲め、縣は教員講習會の開設に、教科指導員の設置に、或は研究協議會の開催に夫々施設計劃する處あり、近時大に之が面目を改めたりと雖も、更に研究改善を要すべきもの少しとせず。茲に範圍を小にして地方的、部分的に再び研究協議會を開催し、關係郡市各小學校より該科研究主任の會同を求め、特に實際家としての蘊蓄經驗を聴き、學習指導の實況を觀、各種の

事實問題につき論議考覈を遂げ、以て本科教育の進展向上に資する所あらんとす。

一、講師

東京高等師範學校教諭兼教授 藤 木 源 治氏

二、參會者

横濱市、横須賀市、川崎市、久良岐郡、鎌倉郡、三浦郡各小學校理科研究主任一名宛

三、日程

七月四日(金)

午前

一、開 會(午前八時)

二、實地授業參觀に關して説明

三、實地授業參觀(自午前九時至午前九時五十分)

四、研究發表(自同十時至正午)

五、協 議(自午後一時至同二時)

六、講評・指導・講演(自同二時至同四時)

七、閉 會

四、研究發表

前記三市三郡及會場學校より各一名(計七名) 平素の實際研究を演述に依り發表すること。

研究發表者並發表題目

- ▽理科教育の一部面 鎌倉・瀬谷校訓導 齋藤 寛
- ▽理科教授の一考察 横須賀・豊島校訓導 森野勝之助
- ▽理科學習に於ける問題と其の指導 横濱・共進校訓導 杉山 嘉行
- ▽同好會科學部の經營 川崎・旭町校訓導 新倉 隆
- ▽理科教授の刷新 久良岐・金澤校訓導 布川 正作
- ▽小學校に於ける化學藥品の活用及整理の試み 三浦・大津校訓導 秋元 秀雄
- ▽理科教材の有機的取扱 横濱・三吉校訓導 北村嘉代吉

五、協議事項

▽最も有功なる教科書の取扱法如何

(横濱市共進尋常高等小學校提出)

▽理科藥品は如何に整理すべきか

(横濱市共進尋常高等小學校提出)

六、實地授業

學年	教科	材	教授者
尋四(女)	ゆ	リ	訓導 石井健三
尋五(男)	ふ	な	同 杉山嘉行
尋六(男女)	アルコール	ル	同 大石國平
高一(男)	ナトリウム	ム	同 間邊東馬
高二(女)	液體の壓力		同 長谷川雷助

狀況概略

村上教務課長開會の挨拶……要點

最近各小學校とも、各教科の研究の旺盛な事は誠に結構な事で御同慶の至りである。教育の効果を擧げるには學殖を豊富にする事が大切である。特に時勢の進歩は急速で餘程力めても遅れ勝である。我々の生活は科學の世界で、理科とは最も交渉が多い。而して理科は國民の短所とする教科である。本教科の成績向上を計るには設備が十分でなくてはならぬ。此の方面に於て不十分な學校も随分ある様である。次に職員の研究工

夫に待たねばならぬ。

本日の此の企てを大いに意義あらしめたいと思ふ。

□實施授業參觀に關しての説明

共進校長谷川訓導の説明要項

一、學校の現状に就いて

二、教授に就いて

(イ) 科學的精神の養成

(ロ) 人生の科學的理解

(ハ) 自然・眞理愛好の情、自然研究の趣味等の涵養

1 事物の經驗を基礎とする。

2 長期に渡つて實驗觀察を要するものは、その設備を要する。

3 自然科學的方法に依つて研究せしむべきである

4 自發活動を重くみたい。

5 自發活動の結果を、自然科學的に處理する。

三、設備とその活用に就いて

四、本日の教材に就いて

□授業參觀

□研究發表

□協議………狀況別載の通り

□講評と指導、講演………別載の通り

□司會者の挨拶

□會場校長の挨拶

協議狀況

□最も有効なる教科書の取扱法如何

(共進小學校提出)

出題の説明 (石井訓導)

理科教科書は、極めて抽象的なものであるから、その取扱には深甚の考慮を要すると思ふ。國語科等に於ては抽象されたる概念より具體化することを必要とするも、理科に於ては如何かと思ふ。若しかゝる取扱をなさば、國語科教授と何等選ぶところ無きのみならず、兒童の研究心をそぎ學習を防げる嫌があると思ふ。

本校としては、學習事項の整理復習等に使用する位に止めてゐるが、何分教科書取扱には迷つて居る。適當な方案

あらば、御協議の上御示教に預りたい。

質問——なし

意見發表

司會者 教科書は使用して居る學校も或は使用して居ない學校もあらう。この問題は餘りに平凡な様ではあるが重大な、結構な問題であると思ふ。御經驗そのままの御發表を望む。

長谷川訓導 (共進小學校)

取扱ひが拙ければ前に石井君より申上げましたやうに、弊害を伴ひ益する方面が少く、結論から申しますと、必要に近いのではないかと思ふ。折角御協議を願ひます。

司會者 本縣東部の各校理科主任の集りで、教科書が不要となれば、大きな問題であると思ふ。有効に使用して生かす途あると思ふ。

堀江訓導 (星川小學校)

當校の理科教授の方針の中に、自然科學研究の法則に則りて行きたいとある。記述分類等六項目挙げられたが、その當校の方針が教科書を不必要に導いたのではないか。教師用書凡例の終りに、兒童用書は兒童の筆記寫生等を

避ける爲に作つたとしてある。

指導の後に自分等のやつたことは、教科書にはかう現れて居る等の方面に参考となる。其の他準備に於て、この題目でやるから、これを調べて來いと研究事項を課する時、兒童は實物を調べたり觀たりすることや、又は教科書につきて調べたりする。従つて教授の前後に使ひたい。

舊教科書はともかくも、新教科書は充分氣をつけて編纂されて居るから、吾等の大いに助けになるものである。

秦野訓導 (鎌倉師範附屬)

科學的の認識を迫るか、抽象から這入つても後思惟の力によつて體系を作ることが出来る。その意味から、活字から勉強することも無意味ではない。

小學校の教材はどちらかと思れば、尋常科では主として事物の觀察で結構であり、高等科の教材は繪畫等間接的な手段で進めても差支ないものがある。故に尋常科は使用の必要がなく、高等科に於ては使用させてよい部面もある。思ふことが多く爲す仕事が出来兼ねる爲め、教科書を使つて一助とすることが意味がある。

しだの用意をする場合、兒童に教科書ののきしのぶを見

せて之をやるからと云つた時、児童が持つて来た。教科書を
のぞむ。

を使ふことも役に立つことがあると思ふ。

種々の束縛の爲に、思ふやうに行かない時、教科書に依
つて思出されることが教員共にある。教科書の使用が弊の
みではなく、役立てることが必要である。経験の體系をつ
ける意味から、豫習に使用すればよいと思ふ。本質的には
教科書は必要でないとは言へない。

訓導（峰小學校）

教材と土地によつて違ふ、堀先生も教科書は教材の配列
と、教授要項を示したのみであると云はれた。

魚の代表として鮒を教へるならば、當市の如きは金魚の
方が趣味があると思ふ。その場合、教科書は整理の段で、
金魚と比較して取扱つて行けばよいと思ふ。

物理に於て、光學を授くる場合等は教科書から導いて行
く方が徹底し易い。

若し使用させるなら、整理の段に於て、教師が講讀して
進めて行く取扱ひ方がよいと思ふ。

司會者 二百名の集りだから、二百の考へがあると思
ふ。もう既に決定したことゝも思はれるが、一層の御研究

理科藥品は如何に整理すべきか

（共進小學校提出）

出題の説明（石井訓導）

兎角理科藥品は、不整頓になりがちである。その爲に有
るものを使はず、不用の藥品を有るが上に購入し、或は思
ひもよらぬ危害を被ることがある。又教授の準備に間に合
はず、其の爲に本質に悖る教授をなすことがある。經濟上
能率上にも、甚だ損失を將來することゝなる。就いてはそ
の整理は形式でなく、使ひよい様にして置かなければなら
ぬ。

本校の整理方は、藥箋を劇・毒・普通の三種に區別し、
藥名は左書とし、五十音順に並ぶ。且つ藥箋と戸棚とに番
號色別けを施し、所在を明かにす。特に危険藥品はコンク
リート戸棚に整理す。

兒童用藥は箱にその種類別におさめて、教室戸棚に置く
右は其の要である。他に名案あらば御指導に預りたい。
質 問——なし

司會者 寶の持ち腐れになり勝ちであり、且又大いな
る危険を伴ふものであるから、充分御協議を乞ふ。
意見發表

市川訓導（鎌倉第一小學校）

定められたる法規に基き戸棚は引戸とし、劇毒藥の處理
は言ふまでもなく、法規上の整理方法を實施して居る。

平常使用藥品の整理は兒童の組數によつて、十五組に小
分けして、箱に入れて居る。劇藥は個々の箱に鍵をかけて
納めて居る。

整理はイロハ順ではない。例へばナトリウムは其の鹽類
と共に一箇所に藏むるやうに。

瓶には大きな字で立書として居る。

補給方法は、あき瓶はそのまま、其の箱に入れず、別の箱
を用意し、其の中に入れて置く。

購入の藥品は必ず、戸棚用の瓶に必ずあけかへる。

整理の要は、手まめにやることゝ、一日一度は必ず見廻
ることである。

秋元訓導（大津小學校）

A 教授上都合よく（教師の使ひよい様に）
B 藥品より起る危険を絶対に防ぐ様に。
右二項に歸すると思ふ。次に注意事項を一二述べたい。

A 藥品に對しては、常識で判斷してはいけない。はつ
きりした、正しい知識と理解をもつてやらねばなら
ぬ。

B 係が熱心でなければならぬ。

C 索引は異名でも本名でも、引けるものにして置くこ
と。

司會者 二題共實際家として、研究しなければならぬ
問題であり、目前の重要な問題である。幸に時間があれ
ば、先生の御意見を伺ひたい。

休憩 十分 午後二時四十分開始。

授業に對する參觀者の批評及び意見——無し。

講評と指導——講演

要録

講師 東京高等師範學校教授
藤木源治氏

▼講評と指導▲

今日は、神奈川縣東部三市三郡の、趣味を同じうする諸君と、親しく相見ゆることが出来たことを喜ぶものである。私は小學校に直接の経験がないが、この方面の趣味は多量に持つて居る一人である。故に意見の發表等を自分の參考に致し度く、今日は喜んで参つた次第である。

今日のお話は、實は横濱市も未だ復興の途上にあるものと思ひ、立案した次第であるが、来て見たら全く豫期に反して、設備施設の整へることに驚かされた。

これは當校職員の努力は勿論、縣市當局の御苦心は云ふ迄もないが、學區域の有志父兄の理解が預つて力あるものと思ふ。私は何處でも、この方面を説くが、理解ある父兄の應援がなくては、理科教授の振興は望まれない。當校に於ても、學校と父兄との協力に依つて、かゝる立派な設備が出来上つたものと思はれる。理科學振興上實に喜ばしきことである。

教授のよしあしは比較的の言葉であり、教授の態度は十人十色で、容易に之を判定し得るものでない。

或る學校の數學教授に、或るプランを立て、指導した所が、おそろしい程よく出来る。然し其の裏に四時間、三時間少くも二時間父兄がためこむといふが、これが果して其の校のプランが、如何程効果を奏したものであらうか。

教科書の問題等も、協議を以て定むべき性質のものではない。用ゐたから、用ゐないからと云ふことによつて成績のよしあしは判定出来ぬものである。

教授は、ほんの短時間づゝ參觀したのみであるが、氣のついた點を述べやう。

液體の壓力 はむづかしい教材である。今日のところは、パスカルの原理で、重力による壓力の取扱ひであつた。具體的に定量的に、取扱つたことは、この實驗に一新機軸を開いたものと思ふ。唯觀察せしむる場合は、大きなサークルでも作つて、兒童によく觀せたかつた。

室内の實驗には不向きなものであつたが、落ち付いて、兒童が納得する迄、實驗を進め、道行きを徹底的に取扱つた。そして考察を部分部分に確實にした點は結構であつた。

アルコール 兒童が最後まで元氣で理論的に研究し合つた點、誠に美ましく感じた。アルコールが蒸發する時、熱を取る問題が、ずつと教授が進行して、酒の取扱ひの邊で、兒童の間に論議されたが、今少し早くアルコールの性質で出さうな問題でもあり、且つそれが一層有効であつたと思ふ。

ナトリウム 第二學期の教材であるが、特に選んだものと思ふ。あれだけの教材を一時間(四十五分)では容易なことではない。従つて、その指導は困難なことである。

苛性曹達の水溶液に炭酸ガスを導く場合、教科書には泡が消えると書いてあるが、空氣が混じてゐたら、泡は消えず

に昇る。故にこの場合は、泡が漸時に、大きさを變ずる様を観察せしめて、教科書を生かしたい。

▼ 講 演 ▲

理科教授様式の變遷

教師實驗より兒童實驗に遷つて來たことは今更言ふ迄もない。昔の理科教授は遙拜教授であつた——遙拜教授とは安當を缺くかも知れぬが、先に私の名づけた言葉である。小さい試験管を壇上から教師が、かうなつて居るであらうが等と遙拜さす意である——。

實驗といふことは單に理科のみの獨占ではなく、凡ての學科に必要なものであると思ふ。

歴史教授に於ても、修身教授に於てもさうである、遠隔の地で、宮城のことを授くる場合に繪畫等に依るよりも、上京の序に、二重橋外の小石を一つ頂いて來て、これが二重橋外に敷かれて居る小石で、東京市民はこの石の上に、ぬかづいて 明治天皇の御病氣御平癒を祈つた、と云つた方が兒童の感じを強くすることが出來、泉岳寺のこけ及び線香の屑を拾つて居て、これが赤穂義士の墓石に、むして居るこけだ、そしてこれが澤山の人が毎日參詣して、いつも煙が絶えない、その線香の屑だといへば、一層感興を深めることが出来る。

講義實驗と兒童實驗との區分を明かにし、實驗に際しては、途中の道行きを確實にし、考察の方法を誤らぬやうにすることが、最も大切である。

理科教授振興上の難點

理科教授を振興さす上に、左の困難が横はつて居る。その一つは、父兄の理解を得るといふことである。これが前にも、當校の設備で述べたやうに、理科振興の上に、大いなる影響を及ぼすものである。次は教師の負擔が過重であることとで、一時間の授業をなすに、數時間の準備がかかることである。

實 驗 五 則

先輩倉林氏が實驗五則を提唱されたが、誠にさうあらねばならぬ結構なことである。私は先に述べた教師の負擔を軽減する爲に、實驗準備五則を述べて見たい。

實 驗 準 備 五 則

實驗に當り、時間の經濟と、其の効果を大にする爲に

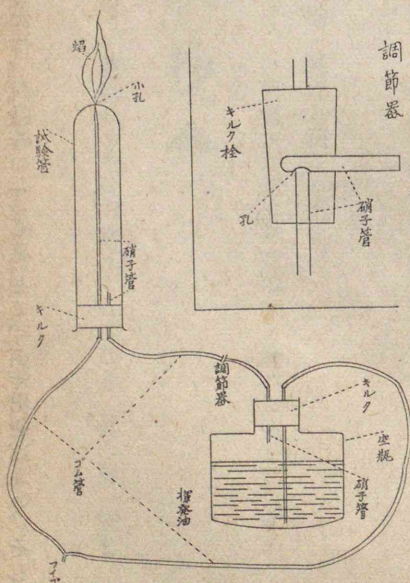
熱源装置を造れ

當校のやうに、電氣瓦斯等の熱源装置が備つて居る所ではその必要はないが、然らざれば、アルコールランプは、熱源としては不向きである。次は、ありふれた装置ではあるが、これでも結構其の用を足すことが出来る。

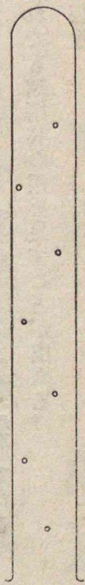
簡易熱源装置

右熱源装置使用の實驗

(イ) 壓力實驗器の作製



試験管に左圖の如き小孔を穿ちて作ればよい。小孔を穿つには、試験管の一部を熱して、引き出せばよい。そして同一平面でなくすれば、流れ落ちる水が重なる憂ひがない。



(ロ) 試験管切り

(ハ) 空瓶切り

実験準備所又は準備室を設けよ

手取早く準備をする爲に、整理が必要

器具の流用を避けよ、実験に使用したものは、一物も之を忽にせずして保存せよ。

其の例に示されたる、先生の實驗に使用せられたるもの次の如し。

アルキメデスの原理を説く小石、自製の桿秤

線膨張實驗器

眼球の實驗……遠近

副射熱實驗器

蒸氣機關説明器（ボール紙にて作り、動的のもの）

時計説明器（右に同じ）

合力分力説明器

以上は各種別に一括し、見出しをつけて保存し、毎年之を使用する。故に、準備に時間を要しない。翌年の準備は之

を前年になせ

本年度の教授が、使用の後始末をよくし、來年度は直ちに之を持ち出して、用が足りるやうにして置くこと。

理科關係教師の統一連絡を期せよ

小學校に則した實驗と實驗カード。

中等學校は専門學校の縮少であり、小學校は中等學校の縮少である。各々其の校に適した。實驗を必要とする。

小學校に於ては、小學校に則した實驗が必要で、其の實驗を行ふに當つて些の遺漏なき準備方法を記入した、カードが必要である。これが其の實驗を百發百中ならしむる所以である。

研究會の二様

1 理想の實現につとめること

人間業で出来るだけの研究を進めて行く。

2 時間の經濟と、能率の増進につとめること。

永續的永遠的理科教授の爲に努力することの出来る準備と整理方法との研究。

私は、かく多數の熱心なる、同好者を得たことを喜ぶと共に、今後益々お互に研究の歩を進めたいと存じます。

▼司會者の挨拶▲

例年附屬小學校で、開催して居たが、本年は稍新味を加へて、普通の小學校で催すことになり、其の第一回を、當校
にお願いした次第である。

授業も準備も至れり盡せり、といつてよい程で、校長始め小使に至る迄、心を専らにしてこの任に當られたことであ

らうと思ふ。

來會者の諸君も、早朝から、研究心に燃えた參觀をせられて、感謝の外はない。

以上は藤木先生の御指導と相待つて、該科の進展を見ることであらう。

先生は御多忙のところ、特に此の會の爲に容易ならぬ時間をお割き下され、早朝から只今まで御熱心に御指導下さいましたことを厚く感謝致します。殊に直觀に訴へて、吾等を御啓發下されました。吾等はその實驗を模倣するのみではなく、其の根底に流るゝ御精神を伺ひ得たいと思ひます。

今日の御教示は理科教育のみでなく、教育全般に亘つての問題とすべきものであると思ひます。翌年の準備は之を前年になせ等、實に味ふべきことだと思ひます。

參會者の方は、皆この科に興味を持つて居る方で、今日の御教示の精神を以て、益々斯道の爲にお盡しあらんことを希望致します。

共進小學校では理科研究協議會場としての多忙裡に、其の狀況の要録を御執筆下さつた勞を深謝致します。

(編者)



世界教育思潮の大觀

都 筑・都田校 野 地 當 作

- 一、人文主義……………二、實科主義……………三、宗教主義……………四、理想主義
- 五、自然主義……………六、機械主義……………七、個人主義……………八、社會主義
- 九、國家主義……………十、國際主義……………十一、むすび

私達は成るべく廣い、そして偏しない考の上に立つて、教育といふ仕事をして行かねはならない。勿論、國家と時代との要求に従ふべきは、言ふまでもないが、併し同じ従ひながらも、不偏妥當な位置に常に立つやうに努めねばならない。それには、世界に於ける古から今までに起つて來た所の教育思潮なるものを、一通り知つておく必要があると思ふのである。

第一 人文主義

(一)人文主義の意義

洋の東面をとはず、教育は先づ其の治者階級の子弟たちの間に行はれ始めた。彼等は、下萬民を治める必要上から、一方には宗教の力と結び、他方に

は、當時の學術をとり入れ、以て法の制定者となり、すべての價値の決定者となり、統治者としての人格修養をなさんとしたのである。即ち生活上には充分の保障がある階級の教育は、畢竟此の貴族的な人文主義であつた。

(二)支那の人文主義

儒教を中心とした支那教學の精神は「君子」といふ一個の治者階級たる士人の教育をなすにありとした。故に、孔子の語の如く「君子は器ならず」で、一技一能に通達した、所謂實科的な人

物を養成することは、寧ろ外道であるとした。

(三) 希臘の人文主義

是をアゼンスに見るが如く、ギリシヤの教育も亦、市民といふ治者階級の修養といふ事に、重點をおいてゐた。そして實科的な教育は奴隸の受くべきものとして、卑しんだ、併し乍ら人文主義は、藝術や學問に對する天才、又は等に對する無私な熱情や研究心はもとより匹敵することが出来ぬ程の効蹟があつた。

(四) 羅馬に於ける人文主義

羅馬は希臘から人文主義の教育を受入れたけれ共、それは單に材料を借入れたのであつて、精神は實科主義であつた。即ち哲學や文學なども、人性修養といふ意味よりも、寧ろ修辭辯才のある政治家として、或は軍人として活

動する人を作るために教へらるべしとしたのである。併乍ら此の教育も矢張り平民や奴隸には施されなかつたのである。

(五) 中世に於ける人文主義

羅馬の滅亡後、所謂中世の時代には基督教の僧侶たちによつて、教育が支持せられたが、自然的、現世的に人性の修養をなすといふ代りに。その哲學も文學も、超自然的、宗教的であつた。

(六) 近世初期に於ける人文主義

十五世紀以後——文藝復興以後の教育である。文藝復興とは、一四五三年東ローマの滅亡後、古典學の研究から出發したものであるが、一面には中世紀の宗教に束縛せられた文化から、反動的に自由研究にうつつたもので、其の教育も「中世紀の教育は身體を餘り厳しく取扱ひ、精神を餘り狹隘に訓練

し、心身に對し頗る抑壓的の傾向を取つたが、その反動として廣く且つ寛大なる教育を見ねばならぬ、それは衛生と體育とに相當の注意をばらひ、從來三段論法の虜となつてゐた知力を自由に、論理的の言語の運用に代ふるに、實科的研究を以てし……心と體と趣味と知識と情と意とを併せ練り以て人物の完成を期する所のものである」之がやがて近代文明、近代教育の源泉をなしたものであるが、更に

(七) 新人文主義

文藝復興時代の人文主義は、再び其の生命を失つて古典研究の形式的な模倣にあつたときに、十六世紀から十八世紀へかけて、實科主義の教育が追々優勢となり、且つ十八世紀は啓蒙時代といふ、知と理とを最も尊ぶ時代となつたので、此に人文主義は更に之に對

抗して「新人文主義」となつて再生した、即ち獨逸のベセドウ(一七二三—一七九〇)が汎愛院に於て新しく實科主義的教育を創始して名聲が高かつたので、ゲツチンゲン大學の古典教授ゲスネル(一六九二—一七六一)等によつて起されたもので、ゲーテ・シルレル等の文藝上の大家も之に参加した、而して獨英佛にその主義は廣まつた。而して新人文主義が人性を完ふする人道主義に立脚すると同時に、國民文學を起すことゝ結び付き、其の結果古典の研究は、愛國心の養成にかくべからざるものとせられ、益々古典は治者階級、識者階級の修養に缺くべからざるものと見らるゝ根底を固くし、其の貴族的の傾向を強むるに至つた。

(八) 理科教育との對立

十九世紀に入つて勃興した自然科

學の研究は、人文主義に對して大なる脅威であつた。其處で、人文主義は形式的陶治論を持ち出した。即ちよく陶冶せられた能力は、他の場合にもよき能力であるとした。之は我國に於て、漢學や國典の教育を重んずる人の心境も亦之れである。歐洲大戰で獨逸が充分に其の能力を發揮し得たのは、科學教育、實科教育の賜であるとの主張に對して、此の派の人々は、英國人が人格教育を主としたからとて、立派に戦つたではないか、殊に貴族や富豪の子弟に多々ありしはあらずやと云ふてゐる。

(九) 藝術教育

近時藝術教育が強く叫ばれるゝ様になつたのであるが、之も人文主義の系統に屬するものである。即ち人の心は科學を研究するには、原因結果の理法に

縛られて新らしい自由な働きをするとは出来ぬ。然るに藝術の境地に於ては、想像力で藝術の世界に我々の心は自由にはたらいて行く。創造力の陶冶のみならず、藝術的工藝品の生産をも増加して國富を増すに至り、生活を趣味あらしめると云ふのである。

(十) 人文主義の將來

以上述ぶるが如く人文主義は、東西共に、治者、識者の階級の教育理想として現はれ、殊に西洋では、ギリシヤローマ、中世脈絡たえず、更に近世の始めに復活し、宗教改革の途をひらき、十七八世紀には、實科主義と争ひ十九世紀より現今にかけては、科學教育と對峙してゐる。一般の修養を主とする普通教育上の主義として、理想高き文化國で指示し、人の多方的圓滿發達を高唱する點は、大いにとるべき所

であるが、其の陥り易き弊は文學的教育の弊として、書物上の講義に流れて記誦を主とし、觀察推理の力を充分に練らず、現實の生活と没交渉になり易き點である。

第二 實科主義

(一) 實科主義の起原

人文主義に反對なる主義である。羅馬にその起原を認められる。蓋しローマは實際的なる事を尊重したから、生活のための學問、享樂のための藝術、功利のための道德、生活安定の爲めの政治法律を高調し、以て實際的な人を造らんとした。

(二) 羅馬に於ける實科主義

羅馬人は、希臘人の理想的生活を喜び、美的享樂を愛し、知識を愛し、主觀界に立てこもつて自己満足をなして

ゐたに對して、頗る實際的實踐的であつた。セネカの教育意見の如きも、「學問は學問のために之をなすにあらず、生活の爲めに之を學ぶのである」教育の目的は言説によりてよりは、寧ろ示例に依りて早く達せらる。

(三) 中世に於ける實科主義

中世紀の宗教萬能の教育により、一時實科主義は衰へたが、後都市の發達と商工業の發展によりて再び起り、十六七世紀に入りて、實科主義教育は大いに高唱された。

(四) 近世に於ける實科主義

十六世紀に入りて、ラベレイ、及びモンテーヌ等は、古典教育よりも國語隣國語の教育の方が重要なりとして、實科的教育を主唱した。十七世紀に有名なるベーコンが「歸納法」による學問研究法を創始してから、益々實科主

義は盛になり、彼の獨逸の大教育家は教育の方法をベーコンの自然研究主義の上に置き「知らしむるには形や記號に依るべからず。實物を以てせよ」といつた。英國のロツク亦しかり。

(五) 十八世紀に於ける實科主義

十八世紀は急激革進の時代で、ルツソーの「エミール」は實科主義教育小説であり、バセドウの汎愛院の教育は其の實現であつた。即ち此の時代は、人文主義貴族主義より實科主義民主主義へと走つた時代である。

(六) 十九世紀以後に於ける實科主義

科學が急激に進歩したる此の世紀には、實科主義も勢ひ隆盛となつた。オーギュスト、コムト(一七九八—一八五七)は實證哲學の一派を起し、實證し得る知識以外の知識はすべて之を排

斥した。故に彼は從來の神學的哲學的教育に代ふるに、實證教育を以てすべしと唱へた。之を繼承したのが、英のハーバート、スペンサー(一八二〇—

一九〇二)は、先づ如何なる知識が最も價値ありやといへば、社會の進歩發達を助くる所の知識、即ち理科なりとした。やがて此の主義は民主主義と結んで大なる發達をとげ、米國に於て特に榮えた。

(七) 勤勞主義

輓近隆盛をきはむる作業主義、勤勞主義等の教育は、實科主義であつて、獨逸のケルンエンシュタイナーの如きは其の代表者である。彼は兒童は聽くといふ自然的衝動は持たずして、作業し創作する自然的衝動を持つてゐる。今日の學習學校は勤勞學校たらしめんといつてゐる。日本の新教育も、必ず

此の主義をとり入れぬものは一つもないといつて可である。

(八) 東洋に於ける實科主義

儒者にも一面實科主義があり、日本では、中江藤樹、二宮尊徳等は之れを多く説く、明治以後の教育には皆之を取入てゐる。併し専門の教育は何といつても人文主義の方が強いのである。

(九) 實科主義の將來

實科主義は近世自然科學が勃興し、生産、通商が榮え、實業者階級が勢力を得、社會民主的傾向が強くなつてから、特に盛になつたのである。人文主義と長短相補の關係を以て益々發展しつゝある。

第三 宗教主義

(一) 宗教主義の起原

最古の教育主義であつて、何國に於ても、宗教家は教育家であつた。

(二) 宗教教育の體系

東洋に於ては釋迦西洋に於ては基督

出現以後、體系化された。

(三) 宗教教育の本質

宇宙の實在を關係せしめて其の心眼を開かしめ、社會的には四海同胞の平和的精神を涵養するにある。

(四) 宗教教育の組織

佛、基兩教共に國家政治的經濟的組織以外に宗務の總監者が、之が教育機關を整然と作つた事は言ふまでもない而して、其の慈悲、愛の精神に依て兒童其の他民衆の教育のために、全身全靈を捧げた。ジエスイツト派の布教師が其の上途の際に必ず「我れ行くべししかも歸らざるべし」との誓言をなしたの一例である。

(五) 宗教教育の將來

科學の勃興、世俗的勢力の勃興によつて、宗教々育は、一時教育と相容れぬものゝ如く思はれ、教育上の生命を失つたかの如く思はれたけれ共、最近再び盛に唱道られるやうになつた。

(以下次號)

教科
指導

家事・裁縫

教授の實際と研究指導

高座・御所見校

▽日時 六月十六日

▽會場校 高座・御所見校

▽指導員 女師 藤井教諭

研究会

座長

今日の御授業に當られました泊瀬川さんの御意見御計畫を先にお伺ひする方がよからふと思ひます。泊瀬川さん御願ひします。

教授者 泊瀬川訓導 自席から

誠に粗末な授業をお目にかけてまして失禮いたしました。計畫など申上げる程の

教授の實際

尋四裁縫科

教授者 泊瀬川シゲ

時間 午前九時より

教材 糸の留め方(抄ひ留)

目的 抄ひ留めの必要な理由、方法を授け、其の技術を練習せしめる。

前時間の整理

教 此の間から糸の留め方を習ひましたね
何留と何留でしたか
生 打ち留とかへし留。

教 どちらが丈夫に留りましたか。
生 かへし留。

研究

教 二枚の布が合さつて居る時——こうして二枚を引つばつたらどうなりますか
兒童皆やつて見る。手を舉げるもの多い。
一生指されて——糸がゆるみます。

他の一生 口があります。

教 それでは糸がゆるまぬ様、口が開かぬ様に、何か外にもつとよいやり方はないでせうか——一つ考へてごらんなさい。

兒童皆色々工夫してやつてゐる(この間約五分)

指導者 机間巡視、兒童の工夫し、出来たる三四点を教卓に持ち歸る。

教 こゝに大變いゝのが出来ましたから見せませう。

全兒童に見せる。返す。

第二に、抄ひ留をなす場合に、糸を抑へないのは、糸を十分に見せる爲めに致したので御座います。
次に家事の方で一寸申上げます。
煮方の説明で御座いますが、それは學科の方で前にやつてあるので致しませんでした。それと味の見方で御座いますが、これもその煮方の説明の時にやつてありますので、本日は實習室が大變狭い爲めやりませんでした。
尙室が狭い爲め自由に活動出来なかつたことと、兒童も私も緊張して居りました爲時間が伸びました。家事は本年始めてのことと、何もわかりませんからどうぞ充分に御指導下さいませ。

教授方面ばかりでなく、教便物や参考品等にわたり
質問、意見批評等が、大要次の様にあつた。

大和・大口サト氏

「教科書と實習とは如何に取扱はれて居りますか。」

家事の教材の御撰擇は如何にしておいでですか。」
泊瀬川訓導 答

「理論をした後實習致します。簡単なもの場合は一時間で理論と實習をやりま
す。教材は大體教科書に依つて居ります。」

小田原第二・岡田アサ氏

「ミシンの使用は何年位からやつていらつしやいますか、それと實物を全部やつ
てゐらつしやいますか。」

答（泊瀬川訓導の答は以下答とのみ致します）

「高二からやつて居ります。實物は全部やつて居ります。」

岡田氏「ミシンは何臺お有りになりますか。」

答「七臺御座います。」

岡田氏「使用してゐる児童は何人ですか。」

答「高等二年生今年は十五人で御座います。」

岡田氏「私の學校では高等二年生が六十人で二臺のミシンなのですが、この場合

どうやつたら一番いい方法でせうか。」

答「さあ私にはわかりません。」

逸名「私の學校では放課後を一時間、一日七人づゝに分けてやて居ります。」

座長「只今おつしやつたやうに、色々とまぜてお願いいたします。特に教授者

は家事科は始めての擔任ださうですから、多年經驗をお持ちの皆様から

お考へを仰つて下さい。」

北足柄・高橋ユキ氏「實習材料は如何にしてゐらつしやいますか。」

答「児童の家にあるものは児童の家から持つてよこさして居ります。割烹の場合
に於きましては、調味料を學校で負擔して居ります。尙割烹の時でも、特別
の材料——肉類の様なもの、實習材料だけを買つて來させるのは不都合が
ありますので、學校で負擔して居ります。」

問「裁縫科に於ける遅滞兒の指導はどうしておいででせうか。」

答「放課後、一般のもの足なみを揃へるだけ補つて居ります。」

小鮎・宮川ヒサ氏「遅滞兒指導は高二から尋四まで全部一緒でせうか。」

答「一緒にやつて居ります。多い日で三學級のものですから、その内の遅れて居
りますものを集めても大した數にはなりませんから。」

北足柄・高橋ユキ氏「細目がありましたが見る時間がなかつたのですが、六年で
はどの位までやつておいでですか。」

答「本裁女物單衣までです。」

問「五年から襦袢をお始めになりますか。」

答「さうして居ります。」

大澤・下鳥リウ氏「四年生の抄ひ留は仲々困難の様に思はれますが、私の方では
糸をつぐのをやり、それから留方にうつりますが、あなたの方ではもうつぎ
方はお済みですか。」

目的指示

教 返し留でもまだ糸がゆるんでいけませ
んでしたから、今日はもつとよい留め
方、××さんのやつた様なのを皆さん
に教えませう。

指 導

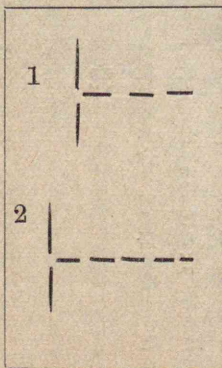
教 こゝに××さんのやつた様なのをこし
らへて置きましたから、皆様にあげま
せう。よく見て置いて下さい。

標本配布

教 そのやり方を教えますから、一本縫つ
て待つて居て下さい。

児童命じられた通り縫ふ。

指導者この間に掛圖を黑板に貼る。



抄ふ場所及抄ひ方の説明、掛圖により。

教 縫へましたか。そうしたら(1)の圖の
様に下から上に抄ひなさい。そして
(2)の圖の様に糸をかけてこのです
も一つ先生が實際にやつて見ませう。

運針されてゐるだけの大きな標本——糸は毛
糸の赤が五六合せたもの、針は竹製らしい
黒い太さ半粒位のもの。

教 これでやつて見ませう。よく見て下さ
い、皆さんと同じだけ縫へてゐますね
さあ、こう云ふ様に抄ふのです、抄ひ
だけやつて見せる。そして、こう糸を
針の向にかけるのです、(糸をかける)

さうして引くのです、(針を引く)その
後は返し留と同じ様に返すのです、五
粒ほど、わかりましたらやりませうが
注意することは

次の様に板書しながら注意する。

- 一、糸の出でゐるところ
- 二、少しすくふ

答「これからです。」

中津・磯村とく子「四年生の針はどの位のお使はせですか。」

答「コチャボを使つて居ります。」

六會・長谷川キン子氏「四年生のマチ針は何本位ですか。」

答「十本です。」

問「落した針、折れた針はどうして居られますか。」

答「私のところへ持つて來させて居ります。」

問「使へる針は如何なさいますか。」

答「時間の終りに調べさせて、不足の人を調べておいて持主に返します。」

小田原第二・岡田アサ子氏「最初の運針用布は如何になさいますか。」

答「學校で一纏めにして買ひ求めて與へます。」

問「遠くで見ただのですが、線がなかつた様でしたか。」

答「片方にあつて片方はないのです、始めは線のある方を縫はせて居ります。」

小出・青木フキ子氏「運針練習は如何な風にやつておいでですか。」

答「毎時練習して居ります。」

問「左の方の手の動かぬ人が大分ありました。運針用布は少し堅い様ですが如何

かしておいでですか。」

答「毎週洗濯させて居ります。」

逸名「一重にすればそんなに堅くはないでせう。」

實 習

八四

教 ではやつてごらんなさい。

兒童とりかゝる、指導者机間巡視、十四五人に個人指導。

その間出來た兒童の自分の出來順を教室の空氣を亂さぬ位の聲で順次云ふて來る。(六十番まで終る)

教 では一度やつてごらんなさい。

兒童前と同じ様に練習を始める。

指導者机間巡視しながら個人指導。

整 理

教 出來ましたらやめて先生のところへ

ちがふところをしらべて置いて下さい

教 さあ、先生のと異つたところがありましたら云ふて下さい、

しわがよりました。

生 しわがよりました。

指導者その兒童の作品を見て注意。

生 こぶが大きくなりました。

指導者同前。

教 大體皆さんのが良く出來ました。では

小田原第二・岡田アサ氏「私の方では、昨年までは線のあるのを使つてゐました

が、今年は晒布を通してへらして縫はせて居ります。自分でしたへらなので興

味を持つてやります。」

大和・大口サト氏「飛標の場合は如何になさいますか、それに物差使用は時間も

不經濟です。」

大澤・下鳥リウ氏「家事の實習で炭の説明はもうお済みですか、今日は大さう大

きい様でしたか。」

答「小使に言つて置いたのですが、忘れたので普通のを使つた爲め大きかつたの

です。」

問「裁縫で高等科の女兒服整形が出てゐましたが、尋常科では簡単なのをやり

になりませんか。」

答「やつて居りません。」

海老名・小平ハル氏「私の學校では、五年で運動會に間に合ふ様にゴク簡単なの

をキモノスリーブ位の所をやつてゐます。」

大和・大口サト氏「兒童の針の数はどの位使はせておられますか。」

答「四年はマチ針十本、クケ針二本、ヌイ針二本です。」

問「五年から上は」

答「各學年別々です。」

問「裁縫とは別ですが、立派なお作法室がおありですが、お作法は如何してゐら

兒童筆記帳を出して圖と板書を記す。

教 今迄に糸の留め方をいくつ習ひましたか。

生 三つ。

教 何と何ですか。

手を擧げるもの多く、一生指されて

打ちどめと返しどめと抄ひどめです。

教 どれが一番丈夫ですか。

手を擧げるもの多く、一生指されて

抄ひどめです。

教 その次は

兒童殆んど全部で

返しどめです。

教 その次は

兒童殆んど全部で

打ちどめです

教 一番丈夫なのは抄ひ留めですが、今に皆さんが着物やお襦袢などを縫ふ時は

つしやいますか。」

答「私はお作法を教へて居りませんから、木内先生からお答へして頂きたいと存じます。」

木内訓導「修身の方で、細目に定められてゐますのを最小限度として、その學年度中に練習して居ります。」

問「今日は家事科が第四時でしたが、平常は何時ですか。」

答「第六時のない日の第五時にして居ります。只今實施の時間割では月曜の五時で御座います。」

問「高二の裁縫時間は何時間やつてゐらつしやいますか。」

答「三時間やつて居ります。」

澁谷・田中ミヨ氏「この細目に配當されてゐる時間で仕上りますか。」

答「實際はもつとやつて居ります。それは家庭でもやります。放課後もやつて居りますから、配當されてゐる時間は正教課の教授時間で御座います。」

綾瀬・赤井ふじ氏「標本を配る時、一々配つて歩きますならば、見る所を一場所定めた方がいゝと思ひます。抄ひ方は斜に抄つた方がいゝと思ひます。」

答「色々ありますが、極く簡單なのを選んでの御座います。」

問「家事科に於て調理の場合、營養分はいくら云つても兒童が忘れますから今日あたりも云つた方がよろしかつたかと思ひます。」

都田・(逸名)「裁縫帖をそろへたわけをお尋ねします。」

答「餘り研究してありませんが、線の在る方が字を書かせるのによいと思ひまして……あなたの方ではどうしていらつしやいますか。」

問「私もよくわからないのです。」

有馬・金子貴久恵子氏「いつも四年生で思ふことでありますが、左の手の位置は如何にお定めになりますか。」

答「左の手は一定せず、右手の一ぱいになつた時に、糸こきをいたす様にして居ります。」

問「それで針の流れる恐はありませんか。」

答「小學校指導書にも一緒に持つ様にあります。」

問「左の手を立てる様にやつておいでですか。」

答「別に左様なことは致して居りません。」

問「留め方について横切れを使用させられた様ですが、何か理由がお有りですか。」

答「とめることだけ多くなさしめるために致しました。」

問「布の縦横は兒童に知らせておありですか。」

答「もう済みました。」

相川・田邊キネ子氏「先生の御態度が實に落着いておよろしかつた様に見受けました。又子供も作法室になれないとのことですが、その割に長い間行儀のよ

打ち留でも返し留でもいゝところがありますから、皆よくおぼへて置いて下さい。今日はこれで終りませう。

針を数えて(以下省略)

終り、午前十時五分

高二家事科

教授者 泊瀬川シゲ

時間 午前十一時十分より

教材 野菜の煮方及味噌汁の作り方

目的 味噌汁の作り方及び野菜の煮方を體得せしめる。

カードに付ての研究

教 今日にはカードにある野菜の煮方と味噌汁の作り方を實習いたしませう。

カードを見て下さい、野菜は何と何ですか。

生 南瓜といんげんと人蔘です。

教 人蔘の切り方は、

教 煮方の順はどうなつてゐますか。

生 南瓜と人蔘を先に入れて、いんげんを後から入れる様になつてゐます。

教 なぜ順をつけるのでせう。

兒童答へられず、教師煮る度の異ふことと、いんげんを色よく上げるための説明がある。

教 味噌汁の作り方の順を云ふて下さい。

生 カードに依りて答へる。

教 それでは實習にかゝりませう。材料をとりて来て下さい。

兒童材料を分ける。

實習

1 野菜洗ひ、

教 南瓜は東子で洗ふこと、人蔘は細根をとること、いんげんは筋を取ることの注意す。

2 鍋をかけさせる、

水を入れ砂糖を入れさせる。

3 野菜の切り方の説明。

4 切れた野菜を鍋に入れさせる。

かつた様ですが、教授に於て若し初めに標本を活用なさつたら、早く理解出来やしなかつたでせうか。も一層掛圖に力を入れて欲しかつたと思ひます。慾を申しすなら、抄ふ所が少々あいまいの様に思はれました。一そりとか二そりと云つた方がよろしかつたと思はれました。一度縫はせたのをおとかせになりましたが、あれはそのまま置いて比較させた方がよろしかつた様です。」

都田・(逸 名)「放課後の特別指導ほどの程度になさいますか。」

答「遅滞兒が覺える程度にいたします。」

大澤・下鳥リウ氏「遅滞兒が残つてゐますか。」

答「えゝ残つて居ります。」

北足柄・高橋ユクヨ氏「遅滞兒が出来得る様な程度には各々に大差があるので出来ないのでいつまでもおやらせになりませうか。」

座 長「手におへない様な不器用なのは中々困難なことですね。」

六會・長谷川キン氏「襦袢の襟先などの出来なものは如何なさいですか。」

答「餘り見苦しいのは直してやります。」

川崎旭町・矢野福恵氏「之れは本日の御授業に就いてではありません、裁縫科の授業全般に亘つてですが、概念の構成、つまり實物をモデルに見せる、部分的標本を多く作る、何事も實物本位に致したら如何なものでせう。運針打どめ等が出来たなら、すぐお手玉の如き實物にうつります。」

- 5 全部調味させる。
- 6 半煮でいんげんを入れさせる。
- 教 いんげんを入れたらふたをしなさい、下さい。
- 教 一寸きゝますが、なぜふたをしなさいのですか。
- 児童答へられず。
- 教 それは、いんげんの色をわるくするからです。覚えて置きなさい。
- 7 味噌汁にかゝる。
- 8 水をはからせる。
- 9 味噌をすらせる。
- 10 鍋をかける。
- 11 豆腐を切る。
- 賽の目の大きき一單位との注意がある。
- 12 出来上つて火の始末をさせる。
- 13 盛り方。
- 教 一つ自由に盛つてごらんください。
- 一二の児童指導者に何か問ふ。
- 14 配 膳、
- 教 盛れましたらカードを見て、お膳立してごらんください。

結果のみ重大視せず、過程を尊ぶ様にしたいと思います。例へば枕おほひの場合に、各方面から觀察して、美的觀念を養成し、實物を多數用意させ、縫方を自分で發見させる。兒童各自の思考力を養成させる上に裁縫科を礎いたならば如何なものでせうか。」

小田原第二・岡田アサ氏「教材が全部揃ひますか。」

答「教材は全部揃ひます。不足など御座いません。」

座 長「御意見等もう御座いませぬ様ですから、之れから藤井先生の御話しを伺ふことにいたします。」

指導講話

藤井教諭

家事、裁縫何れも日常必要なことでありまして、女子である私たちが改良しなくてはならぬ使命を持つて居ります。小學校に於きまして殊に其の方に力を入れて頂くことは、今は行き詰つて居る日本國全體に大きな影響を及ぼすことで御座いませう。かう考へますと、學校ですることが浮々して居られなくなりまして、でありますのに、往々學校内で家事裁縫と云ふ學科が顧みられないことがありますのは洵に残念なことでありまして、他の學科と共にものとつとものと研究して行かなければならぬものと思ひます。

整理

- 15 教師巡視して盛り方配膳の批評をなす
- 次の事項を問答によりて整理さる。
- 1 野菜の煮方に二種あること。
- 2 今日の様子に二種以上の野菜を煮る時はどう云ふ順に入れますか。
- 3 調味料に順をつけて入れた理由。
- 4 鯉節はいつ入れるか。
- 5 味噌のゆるめ方。
- 6 豆腐の煮加減。
- 終り零時十五分。

今日の授業につきまして、先程から色々お話が出まして、私から申し上げることは別にございませんが、一寸氣の付いたことだけ申し上げます。

教授者が大そうよく研究が出来てゐて、始終ニコニコしておいでになつて、全く子供を手に入れていらつしやつたことは感心の外ありません。

一體着物を縫ふのは女の仕事であると考へて居りました昔の人が、何時間も何時間もかゝつて研究したのですが、それだけに六ヶ敷しいのであります。要は頭と手先と一致しなくてはならぬから、左様に六ヶ敷しいのであります。

針の持ち方は、裁縫科の縫ふ方面の全ての基礎になる所ですから、特にお骨折を願ひたいと思ひます。四年生をお選びになつたことは大さうよいと思ひます。留め方はあれでよくわかつたことと思ひます。

どうしても縫ふことが元ですから、基礎の姿勢が整はなくてはなりません。いゝ加減に習慣させずに、基礎だから十分になほしてやらなくてはなりません。先程も運針について色々御話がありました。右も左も動く方がよいと思ひます。左の手は十分に研究しておやりになることが必要だと思ひます。針の数を一定なさいたことは大變よいことです。箱の中も整頓いたせば能率が擧るのでよいと思ひます。殊に忙はしく働く人は、自分の日常品の整頓の習慣にもなります。裁縫家事は個人指導にもなる科ですから、よく指導すれば、その整頓の上にも意義があると思ひます。標本はなるべく活用させる様にいたしたいものです。とにかく標本は多くこしらへて置くことはよいと思ひます。百聞一見にしかずですから、今日の標本の留め方のは一枚づつでしたが、二枚合せて縫つたものの方がよろしいでせう。

それから時間を少し能率を上げる様考へなくてはなりません。その意味で標本の分け方もつと考慮する必要があると思ひます。

先き程抄ひ留めの留め方について色々お話が出ましたが、それには色々ありますのですが、児童には複雑にならぬ様に一色だけおやりになつた方がよいと思ひます。

次に學校と家庭と教へ方が違ふ様なことが實際にはありまして、家庭では學校の教へ方が間違つてゐる様なことをまま聞きますが、學校で教へるのは、最も平易な方法で、合理的のを子供の能力に應じて教へるのであつて、嘘を教へるのではありませんから、少しもおそれる必要はないのです。しかしながら、標本と参考書とを整へ、十分に研究して行くことが必要であると思ひます。

次に家事科に就いて申し上げます。之れからの家庭を向上させて行くのは、國家を改良させて行く上に間接に必要です。科學的に取扱つて行くことはむづかしいが、農村だからとて、どんな案が出ぬと限りませぬ。學校では仕事をすると共に、頭を働かせる習慣を得させねばなりません。それが實生活に應用されなければなりませんので御座います。故に指導者も確かりした考への許に指導しなくてはなりません。

又、面倒だからと云ふことを廢して、出来るだけ時間の都合をして、實習の機會を多くすることが必要です。又、設備が不完全でもよりよく工夫することが必要であります。

本日の家事の授業は、落着いて纏つてゐて結構だつたと思ひます。私は實習を科學的に頭を働かせて、營養方面までも一寸聞かせてやる様にしたいと思ひます。人蔘の切り方等も、元と先とが太さの異なる點を考へさせて切ることが必要であります。庖丁の持ち方も正しく持たせることが必要です。

調味品の量を目測させること、併し都合で秤でなければならぬこともあります。

模範は全部の児童に見せることが必要です。總べて細い所まで注意して、家庭全體を向上させることを希望します。

『藤村少年讀本』に就て

島崎藤村

この讀本の練者、務臺君からの手紙のはしに、

『お作のいろはがるたを繰るとあります。胸を開け。なんと好い言葉でせう。』

子供よ、胸を開け。もうお前達も世界人に伍して恥しくない人とならねばならぬのだ。

——感謝して、編輯してゐます』とある。

この手紙を呉れた務臺君は、長いこと私の書いたものに親んで居られる人であり、曾ては幼いものを相手に教鞭を執つた経験もあると聞いてゐるから、この意氣で編まれたら少年諸君のためにも好い讀本が出来ようと私は

思つた。

もと／＼私は少年諸君のためにも著作をし

たいと心掛けてゐるもので、又、それを書く

のを樂みに思ふものであるが、特に小學生の

學年度に應じて自分の書いたものを纏めて見

ようとははしなかつた。務臺君はそれを惜

しく思はれて、自ら進んでこの少年讀本を編

むことを思ひ立たれ、それから私のとこへ許

しを求めにやつて來られた。務臺君としては

これを編む前に、かなりの心支度もあつたこ

と、思ふ。

少年の讀物はおもしろいものであつて欲し

い。彼等に愛されるやうなものであつて欲し

い。しかし、そればかりでなく、彼等の心を

高めるやうなものであつて欲しい。この讀本

が多少なりともそれに役立ち、學校用の教科

書以外に副讀本なり家庭での讀物なりとして

少年諸君の友となることが出来るならば、私

に取つての仕合せである。おそらく編者とし

ての務臺君の意向も、またそこにあるのであ

らう。

先づ言葉の鍵を與へよ。私が少年諸君のた

めに見つけたいと思ふものも、その言葉の鍵

である。私は今、務臺君のやうな好い編者を

得たことをよるこぶものである。

尋常科用六卷、高等科用一卷、

全七卷、定價金四十五錢

東京麹町區麹町九丁目二

采文閣發行

本縣最近教育界の展望

残暑の隙から脈々として新涼の爽氣をおぼえる時にあたり、本縣下に於て幸にも、今日まで所謂減俸問題等の實現を見ないのは、洵に喜ぶべき現象と謂はねばならない。

國民教育の第一線に立つ本縣五千の初等教育者が、常に一身を賭して、或は擔當の學級教育に、或は學校の全般的教育に力務をつゞけ、俸給問題等に就いては、當局や識者の措置に一任し、殆ど超然として本務に其の力を傾注して居る態度は、今日まで此の問題の實現を沮止した確かに一因をなしたいと思ふ。

而かも、其の態度は夏季休業期に於て益々著しいものがあつた。人は炎熱の甚しきに苦むの時、吾は夏日の永きを樂み、三旬の休暇期を殆ど憩ふ時もなく夏季施設に盡瘁し、又其の半面に於ては、自己の修養の好機會として講習に出席し、研究に没頭し、實に寸暇なきまで善闘した意氣は眞に壯とすべきものである。

三旬の休暇期を、全身汗の滴たる教育者のこの姿に接したとき、誰か畏敬の念を起さぬものがあらう。

今回の様な問題に對する解決方法は多々あらうが、對策中の對策——本質的根本的解決法とするところは、その本務とする教育活動に全心全身を擧げて躍動し、國家が要求し、郷土が要望するところに適する教育の實果を常に止揚することにあると信ずる。此の中心的力點に向つて常に全力を集注して不動不拔であることである——これが社會の信望を益々進むる所以であつて、此の種の問題を解くに當つての最後の鍵であると思ふ。教育者に求むるところ或は大に過ぎるやの感がないではないが、問題の善決を欲するの情切なるが故に、一言所感なき能はずである。

更に、教育者が彌々博大なる氣魄を發揮して其の道に邁進すると共に、社會が教育尊重の實を擧ぐるに一層割切ならんことを望んで止まぬのである。

(和風生)

帝國各府縣教育會撰定

尋一各 リョ各 高學 二年	手本	練習帖	手本練習帖 同時註文
上下各冊	八錢	上下各冊	上下各組
		四錢	金拾錢
		價特引割	

硬筆書方は論議の時代に非ず實行の時代也。而も國定毛筆書方手本と併用し得可き教材は形式内容共に唯是有のみ各府縣教育會が率先撰定推賞するの所以。雑多の物を排し全校速時に是を御採用あれ。

國書西
定方脇
手吳
本石
筆者

標準硬筆書方教材出現—— 硬筆書方手本 同附屬練習帖

標準硬筆書方教材出現——

發行所
東京 神田 橋 稻門堂書店出版部
東京 牛込 區 二丁目 七五番 振替 東八〇六一番
東京 芝 區 六三二番 振替 東六八二八六番

縣下大販賣店
神奈川縣 特別約販賣所
東京 芝 區 六三二番 振替 東六八二八六番

硬筆書方練習帖の權威

文部省委囑 井上千圃書
國語讀本筆者
小學硬筆書方練習帖

東京市教育局編纂 井上千圃書
帝都教育會發行
硬筆書方練習帖

尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六
上下	上下	上下	上下	上下	上下
各九錢	各九錢	各九錢	各九錢	各九錢	各九錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢
各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢	各八錢

本練習帖は斯界の至寶井上千圃先生の筆にして書風高雅端正、編輯内容の整備せる紙質の優良なると相俟ちて發行以來洽き御稱賛を博し、全國的に廣く御採用の光榮に浴して居ります。今や第二學期に入り後期新冊の製本も出來ました。小社は茲に右普及の報謝之意に於て本春以來値下斷行の上御注文供給の敏速に意を注ぎせめてもの奉仕の報恩を心掛けて居ります。何卒今後の御愛用切に御願致します。

△送料一切小社負擔 △見本は御一報次第欣呈

發賣元 東京市本郷區 小學校社
東京 芝 區 六三二番 振替 東六八二八六番

教育令18ノ下

最新刊 發賣 各縣下國定教科書 販賣店

中等教育研究所編纂

神奈川縣中等學校・師範學校

入學選抜問題と其の答へ方

發行 九月十日

内容の要目

- 受験する皆さんへ（受験の心得三大要件）
- 昭和五年度、中等學校・師範學校口答と筆答の諸問題と其の答へ方
- 昭和四年度、中等學校・師範學校口答と筆答の諸問題
- 参考の諸問題

受験する身になり、指導する心になつて、受験者の良い友達であり、手引をするものであるやう、用意の行届いた編纂！！

▼ 菊版美裝堅牢
 ▼ 約三八〇頁
 ▼ 定價八拾錢
 ▼ 郵稅十二錢

三十九号

振替口座東京七三六二番 電話番七四四九番 〇三ノ二町萊蓬區中市濱横

發行 神奈川縣國定教科書特約販賣所